

Newsletter

Vol. 11



チュラロンコン大学 - 東京医科歯科大学 研究教育協力センター



CU-TMDU Research and Education Collaboration Center, Thailand

December 21st, 2018

目次:

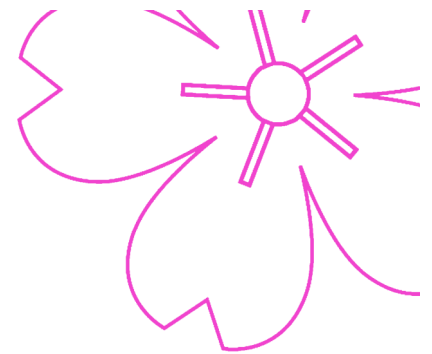
※はじめに _____	1
① マヒドン大学シリラート病院医学部とのジョイント・ディグリー・プログラム _____	2
② チュラロンコン大学歯学部とのジョイント・ディグリー・プログラム _____	3
③ ベトナム・ダナンでの留学相談会 _____	4
④ 高齢者歯科学分野でのチュラロンコン大学修士学生の研修 _____	5
⑤ 保健衛生学科学学生のチュラロンコン大学での研修 _____	6
⑥ 歯学科学学生のシーナカリンウィロート大学での研修 _____	7
⑦ 口腔保健学科学学生のマヒドン大学での研修 _____	8

チュラロンコン大学(CU)と本学(TMDU)は1991年に歯学部間で、2002年に医学部間で学術交流協定を締結しており、25年以上にわたる学術交流の歴史があります。現在は、大学間協定、CUの保健医療学部や工学部との交流協定も締結しています。このような交流実績に基づき、本学の海外拠点「チュラロンコン大学-東京医科歯科大学研究教育協力センター(CU-TMDU Research and Education Collaboration Center)」は、2010年11月23日にCU内に開設されました。

CU-TMDUセンターでは、医歯学領域の共同研究や教育の推進、教員交流・学生交流、日本への留

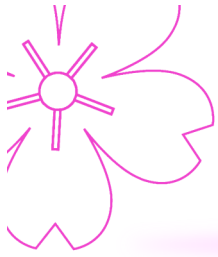
学希望者に対する情報提供、日本に留学した元留学生による同窓会組織への支援活動、在留邦人に対する健康支援活動等を行っています。CU歯学部のDr. Atiphon Pimkhaokham(本学客員准教授)とDr. Issareeya Ekprachayakoon(本学客員助教)がコーディネーターを務めています。

現在、タイ国内には日本の大学約50校が海外拠点を設置し、在タイ大学連絡会(JUNThai: Japanese Universities' Network in Thailand)を形成しています。CU-TMDUセンターも加盟メンバーとして、バンコクにある他の大学の海外拠点と情報交換を行っています。CU-TMDUセンターは、CUだけでなくタイ国内の他の大学や東南アジア諸国



の大学・研究機関等との医歯学領域のネットワークを構築・展開するための交流拠点となることを目指しています。■

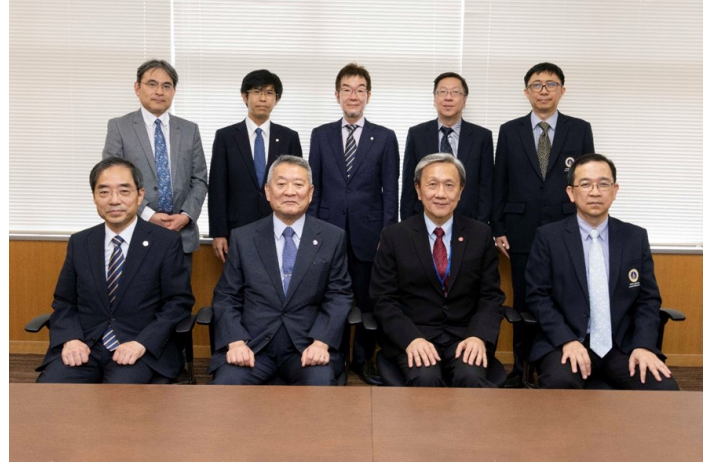
※ タイ拠点運営管理者
健康推進歯学分野
教授 川口 陽子



① マヒドン大学シリラート病院医学部との ジョイント・ディグリー・プログラム



シリラート病院医学部外科医局にて外科部長（中央）
他関係教員とともに



Prasit医学部長（前列右から二人目）一行が来学

2018年6月に田賀統合国際交流機構長を団長とする本学ミッション団がマヒドン大学シリラート病院医学部を訪問し、本学と協議を継続しているジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）の開設に関し、両大学の強みやJDP実施により双方に生じるメリットを整理し、指導可能な教育プログラムについて意見交換を行いました。また、本学

田邊教授、田賀教授が講演を行い、本学の外科系、基礎系分野の強み、研究内容、及び現在両大学が協議しているJDPのプログラム概要について紹介した。講演にはPrasit医学部長を始めとするシリラート病院外科関係者のほか、200名を超えるインターン、レジデント、医学部学生等が参加しました。さらに8月には同病院からPrasit医学部長、Dr. Thawatchai、Dr. Vitoon、Dr. Asada

が本学を訪問し、両大学の教員が引き続きJDP開設に向けた協議を行い、合わせて学生交流についても意見交換を行いました。また、当日は田中理事、田賀統合国際機構長、秋田JDP推進部門長、三宅教授の同席のもと、吉澤学長からPrasit医学部長に対し、本学客員教授の名称が付与されました。■

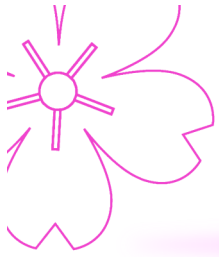
✧ 国際交流課 JD・MPH係



Pisol先生（中央）をお迎えし歯学系JDPの開設について協議

2018年5月にマヒドン大学歯学部Dr. Pisol Senawongse（本学大学院博士課程修了）が本学を訪問し、本学とマヒドン大学歯学部との新たな歯学系JDPの開設に向けて意見交換を行いました。10月にはJDP開設に向けた検討の開始にかかる覚書が両大学により締結され、今後具体的な協議が進められることとなりました。■

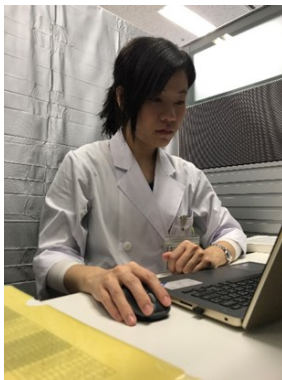
✧ 国際交流課 JD・MPH係



② チュラロンコーン大学歯学部との ジョイント・ディグリー・プログラム

第2期生が2018年6月から本学での研究を開始

2018年6月から、タイ人学生3名（2017年入学）が本学の顎顔面矯正学分野及び咬合機能矯正学分野での研究を開始しました。2019年5月までの1年間、研究データの収集・解析を行い、論文作成に取り組みます。学生にとって、研究だけでなく、本学の留学生や日本人学生との交流をとおして、日本語や日本の文化等についても吸収できる良い機会となることを期待しています。



研究の様子



新たな入学生

7名の出願があり、2018年4月から5月にかけて入学者選抜試験を行いました。筆記試験、ワイヤーベンドリング試験、小論文試験及び面接を行い、3名を選抜しました。合格者は8月に入学し、本専攻の在籍学生は計9名となりました。入学後間もなく森山啓司教授、小野卓史教授がチュラロンコーン大学を訪れ、新入学生へのガイダンスを行いました。

また、その際2016年8月に入学した第1期生との面談も行い、研究の進捗状況などを確認しました。■

✧ 国際交流課 JD・MPH係



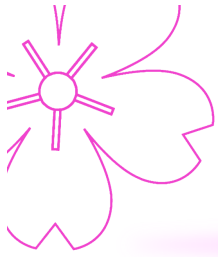
2018年8月入学生と



2016年8月入学生と



チュラロンコーン大学教員と



③ ベトナム・ダナンでの 留学相談会

2018年9月11日～9月14日に、ベトナムのダナンで開催された29th SEAAD、32nd IADRSEAにて
ブースを出展し、留学相談会を実施、多くの方がブースを訪れました。

2018年9月11日～9月14日にベトナムのダナンで29th SEAAD、32nd IADRSEAが開催されました。本学会の開催に伴い、本学からもブースを出展し、留学相談会を実施しました。開催国であるベトナムだけでなく、タイ、カンボジア、インドネシア等の東南アジア地域の学部学生・大学院生、本学を卒業した元留学生、その他大学関係者や歯科医療従事者など157名の方が本学ブースを訪れてくれました。留学相談を行うとともに、International Faculty Development Course (IFDC)の紹介も行い、本学への関心を高めることが出来ました。本学を卒業した元留学生計20名がブースを訪問し、中にはチュラロンコン大学やシーナカリンウィロート大学などのタイの大学に在籍している教員もおり、本学での経験を懐かしんでいました。このような日本の歯科教育に関心

のある学生や大学教員との交流を通じて、より多くの方々に本学へ関心を持っていただき、今後も留学生の増加と目指したいと思います。■

✧ 国際交流課 総務係



本学ブースの様子



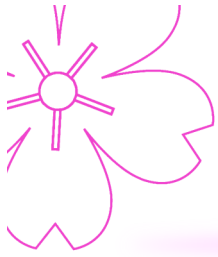
留学に関心を持つ学生の相談に対応している様子



留学に関心を持つ学生の相談に乗るTMDU教員や学生



配布したTMDU紹介パンフレット



④ 高齢者歯科学分野での チュラロンコーン大学修士学生の研修

2018年7月9日より7月20日までの2週間、高齢者歯科学分野においてチュラロンコーン大学歯学部修士学生を対象とした高齢者歯科研修コースを実施しました。今年度は10名の修士学生（2年生）が参加しました。

本 研修コースでは、高齢者歯科学に関する総論の講義、全身管理や摂食嚥下に関する講義と臨床見学（外来診療・訪問診療）、また、高齢者歯科学分野の教員によるさまざまな研究領域に関するジャーナルクラブを企画しました。さらに、今年度から新たにチュラロンコーン大学の学生の症例を基に、症例検討会も実施しました。学生が事前に準備した自分の臨床症例についてプレゼンテーションを行った後に、日本とタイの歯科医師がお互いに治療方針についてディスカッションをすることで、高齢者歯科治療に対する考え方や、治療方針の決定に際して留意すべき点などを共有することができました。

昨年同様、チュラロンコーン大学の学生は熱心に研修プログラムに参加し、2週間という短い期間でしたが、大変充実した内容となりました。来年度以降も引き続き、高齢者歯科学分野での研修コースを計画しています。研修内容をさらにブラッシュアップしていくため、プログラム内容の検討を分野内で行っています。今後もこのような素晴らしい交流が継続されていくことを希望しています。■

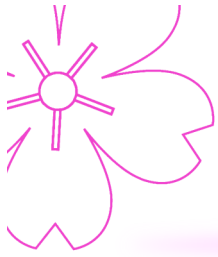
✧ 高齢者歯科学分野 助教 猪越 正直



本研修コースに参加した修士学生達と当分野の医局員



今年度より企画した症例検討会の様子



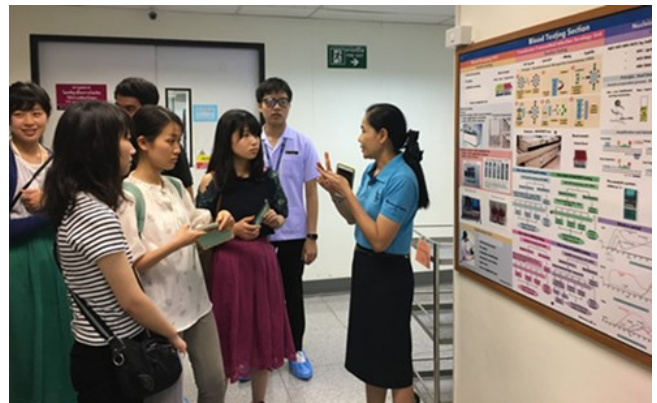
⑤ 保健衛生学科学生の チュラロンコーン大学での研修

2018年8月9日から18日までの10日間、保健衛生学科3年の伊東利紗さん、岩澤茉莉絵さん、根田あかりさんがチュラロンコーン大学保健医療学部での短期海外研修に参加しました。

研 修の前半では、タイ赤十字病院やチュラロンコーンキングメモリアルホスピタルなどタイの最先端の医療機関を見学しました。ここでは、日本とほぼ同等の世界的にも高い技術レベルを有していることがわかりました。さらに研修の後半では、大学で授業や研究を体験したほか、タイ研究エキスポにも参加し、タイハーブの研究などタイならではの研究についても学びました。

期間中は、現地の学生たちからとても手厚い歓迎を受け、学外での様々なアクティビティにも一緒に参加するなど、多くの学生と交流を深めることができました。■

✧ 免疫病態検査学 助教 加藤 優子



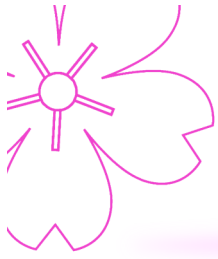
タイ赤十字病院見学の様子



タイの学生とともに実習にも参加



タイの学生と一緒に



⑥ 歯学科学生の シーナカリンウィロート大学での研修

夏季休暇期間に4名の歯学科学生がタイのシーナカリンウィロート大学(SWU)での
歯科短期研修プログラムに参加しました。



SWU歯学部



実習体験（ワイヤー曲げ）

学生は医科歯科大学とSWUでの学生生活を英語で相互にプレゼンテーションしました。タイと日本との事情の違いを改めて感じることができ、またタイにはないスポーツ歯科外来の紹介も行いました。

タイの伝統文化を体験する機会（6日目楽器演奏、伝統衣装を着ての伝統的な舞踊）もあり、タイへの理解も深まり、SWUの歯学部創立24周年のセレモニーやTeachers' day ceremonyにも参加することができ、色々な体験が出来ました。今回のプログラムにご協力いただいたSWUの教職員の皆さんに改めて感謝いたします。参加した学生は、今後タイとの懸け橋になる意識が芽生えたと思います。■

✧ スポーツ医歯学分野 助教 中禮 宏

歯 学部歯学科3年（毛利有紀さん、中出一さん）、2年（野村悠悟さん、原田健太郎さん）の4名が、2018年8月22日～8月31日に、タイの首都バンコクにあるシーナカリンウィロート大学歯学部において、歯科研修プログラムに参加しました。

滞在期間は9日間で、そのうち7日間は大学や附属病院などの見学、あるいは現地の学生に交じっての歯型彫刻実習や矯正外来のワイヤーを曲げる簡単な実習も行いました。週末の2日間は現地の学生さんや先生たちの案

内でバンコクやその周辺の観光に行き、文化交流も行いました。

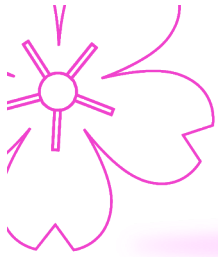
歯学部附属病院では、今後専門教育で履修する、保存、補綴、口腔外科、小児、矯正から放射線などの各専門外来を見学しました。また、若手歯科医師の研修プログラムの説明も受け、タイと日本との歯科事情の違いを理解でき、今後の晩学へのモチベーションアップにつながる内容でした。さらに、附属病院とは別の建物にある私費治療専門のクリニックの見学も大きな刺激になりました。



英語プレゼンテーション



修了証授与



⑦ 口腔保健学科学生の マヒドン大学での研修

2018年9月15日～23日、口腔保健衛生学専攻の6名（4年生の住谷美沙紀さん、原田馨子さん及び3年生の小澤晴菜さん、廣田優子さん、戸倉詩織さん、矢嶋陽向さん）がマヒドン大学での短期海外研修プログラムに参加しました。



Sirindhorn College of Public Healthの方々と

9日間のプログラムの内容は、マヒドン大学歯学部 Pornpoj先生を中心に相談を重ねて作成しました。マヒドン大学の歯学部で授業の聴講、歯学部附属病院、Golden Jubilee Dental Hospital、コミュニティーヘルスセンター、デンタルナース養成学校 (Sirindhorn College of Public Health) の見学、歯科学科学生による小学校での予防処置実習の見学と補助を行い

ました。また、文化交流としてマヒドン大学歯学部学生によるタイ伝統楽器の演奏、本学学生は学生生活や歯科衛生士についてのプレゼンテーション、万華鏡作りを紹介しました。

参加した学生はタイの保健医療の現状や異文化について多くのことを学びました。

✧ 口腔保健衛生学専攻
助教 安田 昌代



Golden Jubilee Dental hospitalの先生方と



文化交流会で本学学生が万華鏡を紹介している様子



小学校での予防処置実習の見学・補助

【発行日】 2018年(平成30) 12月21日

【制作】 国立大学法人 東京医科歯科大学

統合国際機構国際交流課総務係 (E-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp)

<http://www.tmd.ac.jp/international/base/thai/index.html>

【本学タイ拠点所在地】

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11F Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,
Henri-Dunant Rd. Patumwan, Bangkok, Thailand

Newsletter

Vol. 12



チュラロンコン大学 - 東京医科歯科大学
研究教育協力センター

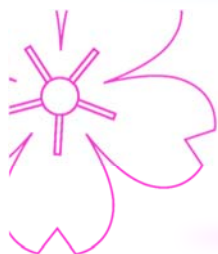


CU-TMDU Research and Education Collaboration Center, Thailand

March 31st, 2019

目次:

- | | |
|--------------------------------------|---|
| ① チュラロンコン大学のAtiphan准教授にコーディネーター職を再委嘱 | 1 |
| ② マヒドン大学における医学科2、3年生の集団研修 | 2 |
| ③ 医学科学生の子タイ派遣（プロセメ） | 3 |
| ④ 国際歯科研修プログラム | 4 |
| ⑤ バンコクにおける国際FDコースの開催 | 5 |
| ⑥ Tri-Universityコンソーシアム会議 | 6 |



① チュラロンコン大学のAtiphan准教授に コーディネーター職を再委嘱

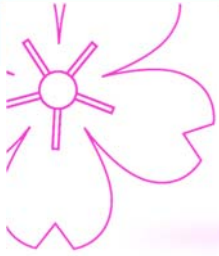


アティバン先生（右）と田賀特命副学長（左）

本学のタイ拠点「チュラロンコン大学—東京医科歯科大学研究教育協力センター（CU-TMDU Research and Education Collaboration Center）」は、2010年に開設され、今年で10年目を迎えます。開設当初から本センターのコーディネーターとしてご協力いただいているAtiphan Pimkhaokhamチュラロンコン大学歯学部准教授に、このたび再度コーディネーター職の任をお願いいたしました（2018-2019年度）。

Atiphan先生は本学大学院を修了されており、タイの歯科同窓会組織（JDAT: Japan Dental Alumni in Thailand）でも活躍されています。Atiphan先生の来学時に、田賀哲也特命副学長（国際担当）より、CU-TMDUセンターのコーディネーター委嘱状をお渡ししました。■

✧ タイ拠点運営管理者
健康推進歯学分野
教授 川口 陽子



② マヒドン大学における 医学科2, 3年生の集団研修

2017年3月の7名に引き続き、2018年3月には第2学年の9名、第3学年の5名、合計14名の学生がマヒドン大学における短期見学研修に参加しました。

タイ・マヒドン大学シリラート病院医学部は、1888年創立された、120年以上の伝統を持つタイで最初にできた医学校である。チュラロンコン王（ラーマ5世）により、タイの国民のための「(タイ)王国の病院」をモットーとして設立され、2000床以上あるシリラート病院は毎年250人以上の医学部卒業生を送り出しています。

今回のプログラムの多くは、マヒドン大学シリラート病院医学部の見学に充てられました。

まず案内されたのは、医学生・医師のみならず多くの医療職種が利用する医学教育シミュレーションセンターでした。この施設は、本学のスキルラボと違って部屋がたくさんあり、OSCE等の試験にも使える施設です。学生はBLSを行うためのシミュレーターが並ぶ部屋を見学し、模型を聴診しながら様々な疾患の心音・呼吸音等を聴診することができるシミュレーターで実際に聴診を行い、目を輝かせていました。シミュレーションセンターのほかにも、医学生が採血や導尿等の基本的な手技を練習するための部屋など、複数の充実した施設を見学することができました。また、解剖体を用いた手術トレーニングセンターいわゆるカダバードレーニングセンターでは、内視鏡を使った手術手技を練習するシミュレーターを使用し、かわるがわる手術操作をさせていただきました。

病院の敷地内には、多くの標本が展示されている歴史ある博物館が多数あります。病理学、医動物学、法医学、解剖学等の博物館を見学しました。解剖学の博物館では昔から使われていたであろう、奇形の胎児を含む多くの貴重な標本が展示されており、寄生虫の博物館では病気がある地域の環境・食べ物が再現されている大きな展示があり、法医学の博物館では、古典的な標本に加えて2004年の大規模な津波被害の映像など豊富に取り入れており、多種多様な博物館に様々な刺激を受けました。

多くの施設の見学に加えて、学生との交流の機会を持たせたことも、大きな成果でした。まず、基礎医学を学んでいる第2学年の「ホームベース」と呼ばれる部屋を見学しました。20~30名の学生でひとつ部屋を使用しますが、学生一人一人に専用のPCや顕微鏡が供えられた机が用意され、中央には実験台があり、基礎医学の実習・講義時間後の自習等に活用されていました。一つ一つの部屋は中央からモニターで監視でき、試験にも用いられているとのことでした。学生たちは数名ずつに分かれて現地の学生にどのように学習しているかなど、学生生活全般について話を聞いていました。同時期にシリラート病院で行われていた、ASEANの学生が集まって「医学の問題を英語で回答する大会」を見学することができ、アジア諸国の学生たちの語彙力・知識などに圧倒されていました。自分たちも語彙を増やして知識を増やしたい、と学習意欲を刺激されていました。

その他、充実した薬草の植物園がありバスで敷地内を移動する必要があるほど広大な教養部、タイ古式医学の部門なども見学し、実技を経験し、幅広い体験をすることができました。どこに行っても学生やほとんどの職種のスタッフが少々片言であっても笑顔で英語を使って説明してくれる姿勢も、学生たちの意欲向上につながっていたと思います。このような機会を提供してくださった関係者の方々に感謝します。■



手術シミュレータを試す学生の様子

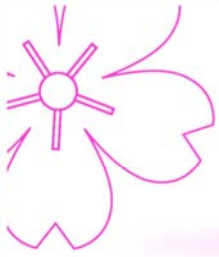


「ホームベース」への訪問



タイの伝統を体験

✧ 統合教育機構
講師 山口久美子



③ 医学科学生のタイ派遣（プロセメ）

私は病理学研究室に所属し、タイでは依然として蔓延している結核について研究を行いました。研修医の方々は非常に優しく、6ヶ月の中で大学のイベントや、タイの食文化をたくさん知ることができました。日本に興味のある方も多く、日本語を教えたり日本流の礼儀を教えたりと、お互いに活発に会話をしました。大学の部活に参加することができ、とても良い息抜きをすることができるとともに、同年代のタイの医学生とコミュニケーションをとる良い機会になりました。■

✧ 只縄 友香 医学科 5年生



「先生の日」お世話になっている先生にお花をプレゼントする日だったので、私も研修医の方に混じって担当して下さった教授にお渡ししました。



医学部の部活に参加させてもらい、学生交流を行いました。

私はタイのチュラロンコン大学解剖学分野のApiwat 先生の研究室にて末梢血中の白血球上の遺伝子発現に着目した肝細胞癌マーカーの研究を行いました。加えて、リバプール大とのバイオインフォマティクスに関するジョイントプログラムを受講させていただくことができ、貴重な技術と知識を身につけることができました。

多くの現地学生並びにイタリアや台湾、ロシアといった様々な国から来た学生たちと一緒に学習・研究をしたりプライベートの時間を楽しむことができました。また、休日には都会の喧騒を離れタイの雄大な自然を楽しむなどして、心身ともに極めて健康で穏やかな日々を過ごすことができました。■

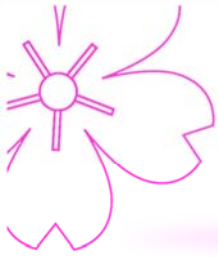
✧ 陸 祥児 医学科 5年生



研究室の人たちによるフェアウェルパーティーです。



自然公園の洞窟の写真です。雄大なタイの自然を存分に楽しみました。



④ 国際歯科研修プログラム

International Dental Training Program

2

018年10月9日～16日に、本学において国際歯科研修プログラムを開催いたしました。タイからは、チュラロンコーン大学3名、シーナカリンウィロート大学4名、ナレスワン大学2名と、計9名の学生が参加しました。他



I DP参加学生



オリエンテーションの様子

に、インドネシアのインドネシア大学から2名、ベトナムのホーチミン医科薬科大学から2名と、本学と学術交流協定を締結している東南アジアの大学から、合計13名の歯科学生が歯科医療技術や歯科材料について学んだり、本学の学生と一緒にさまざまな活動を体験するプログラムに参加しました。

4か国の学生同士が仲良くなれるように、オリエンテーションのあと、ペアとなって自己紹介を行い、それを全員の前で相互に他己紹介して、英語で自由に話す機会を設けました。その後、海外の学生と本学学生が4つのグループに分かれて、『理想の歯科医師像』というテーマでワークショップを行いました。



留学生によるTMDUの紹介



インドネシア学生によるパフォーマンス



楽しい文化交流

その中では、KJ法を使用したグループディスカッションを行い、その成果を代表者がプレゼンテーションし、活発な意見交換を全員で行いました。国や大学は違っても、理想の歯科医師についてはどの学生も同じような考え方を持っていることを学生自身が認識することができ、お互いに絆を深めることができました。

研修プログラムでは、日本の最先端の歯科医療技術や歯科材料を知るための講義や実習を行いました。さらに、本学で学んでいる留学生から、日本での留学生活や日本語の勉強について、直接話を聞く機会が設けられ、今回の研修プログラムに参加した海外学生が、将来、歯科大学を卒業後に、本学の大学院博士課程に進学するための情報提供も行いました。

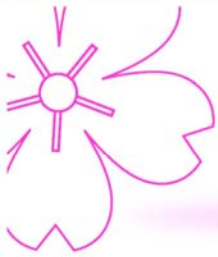
また、地震シミュレーションや消火訓練を行って、災害時の危機管理を学ぶプログラムも海外学生は体験しました。研究期間は本学のお茶祭が開催された時期だったので、週末には海外学生は自国にはない日本の大学文化祭を体験することもできました。さらに、文化交流会では、各国の伝統的な歌や踊りが紹介され、異文化理解を深め、楽しい交流の場とすることができました。若い学生同士の交流が、将来、国際医療・歯科医療ネットワークの構築につながることを期待しています。■



歯学部長による修了証の授与

✧ 健康推進歯学分野

教授 川口 陽子



⑤ バンコクにおける国際FDコースの開催



国際FDの日本とタイの講師陣



保坂助教の講義風景

2019年1月23-24日にバンコク市内において国際FDコースを開催しました。この国際FDコースでは、世界の歯科医療従事者を対象に最新の臨床歯学等についての国際歯学教育を展開することを目的としています。トライアルベースでのコースは日本国外でも2017年に行っていましたが、ホームページ等世界に情報発信して参加者を募り、日本国外で開催される本格的な国際FDコースの実施は初めてです。

東京医科歯科大学からの8名（駒田亘講師（摂食機能保存学分野）金澤学助教（高齢者歯科学分野）、水谷幸嗣助教（歯周病学分野）、保坂啓一助教（う蝕制御学分野）、駒ヶ嶺友梨子助教（高齢者歯科学分野）、關奈央子助教（統合国際機構）村田直係長（統合国際機構）、井上莉沙係員（統合国際機構））に加え、タイの教員4名（Dr. Atiphon Pimkhaokham（チュラロンコーン大学）、Dr. Kajorn Kungsadalpipob（チュラロンコーン大学）、Dr. Chaimongkon Peampring（プリンス・オブ・ソクラ大学）、Dr. Taweesak Prasansuttiporn（チェンマイ大学））とのコラボレーションによるシンポジウム形式のコースを提供しました。参加者は延べ37名で、事後アンケートからは参加者の高い満足度が伺えました。

1日目の午前はインプラントのセッションであり、金澤助教がインプラントオーバーデンチャーの最前線について、Dr. Pimkhaokhamが現在のインプラント治療におけるデジタルツールの活用法など、インプラント治療の最新状況について講義を行いました。午後は歯周病学分野の水谷助教が再生医療におけるMI（Minimally Invasive）治療について、Dr. Kungsadalpipobが骨と歯を保存するための臨床ポイントについて講義を行いました。

2日目の午前は駒田講師のレジンコアについての講義からスタートし、続いてDr. PeampringがCAD/CAMについて講義を行い、午後は修復のセッションで、保坂助教とDr. Prasansuttipornがコンポジットレジン修復の応用性について講義を行いました。いずれのセッションも講義後に、講師と参加者との間で活発なディスカッションが行われました。

2日間のFDを通して、最新の歯科医学・歯科医療に関する情報交換だけでなく、日本とタイの歯科医師間の絆が深まり、ネットワークが強化されました。■

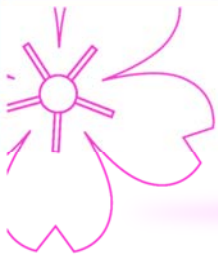
✧ 統合国際機構
助教 關奈央子



Dr. Peampringの講義を受ける参加者



金澤助教（左）とDr. Pimkhaokham（右）



⑥ Tri-Universityコンソーシアム会議

2018年11月30日、第6回Tri-Universityコンソーシアム会議が本学で開催されました。本コンソーシアムはタイ、中国、日本を代表するチュラロンコン大学、北京大学、本学の3大学の歯学部間で2010年に締結され、第1回会議は2011年にチュラロンコン大学で行われました。それ以降、毎年、3大学持ち回りで会議を継続しており、本学主催は2度目になります。チュラロンコン大学、北京大学から、歯学部長をはじめ計19名の参加があり、本学の教員や大学院生を交えた会議が行われました。

午前のセッションは3大学の歯学部長による基調講演で幕を開けました。チュラロンコン大学のPoolthong 歯学部長は、「Chura Ariと呼ばれる高齢化社会に向けた取り組み」について、北京大学のGuo歯学部長は「国際共同研究の取り組み」について、本学の興地歯学部長は「歯学部カリキュラムにおける新しい取り組み」や「最先端口腔科学研究推進プログラム」について発表し、将来の歯学教育・研究について活発な討論が行われました。引き続き各大学の最新の研究成果の紹介が行われ、本学からは顎顔面解剖学分野の柴田教授と咬合機能矯正学分野の小野教授が講演されました。また、口演発表も行われました。

午後は株式会社ジーシーの「GCコーポレートセンター」の見学が行われ、海外の先生方は、日本の歯科材料・器械の開発状況を視察し、熱心に情報収集をしていました。また、摂食嚥下機能が低下した高齢者の食の支援施設「カムリエ」に興味深く見学しました。ポスターセッションは第83回口腔病学会学術大会との共催で行われ、臨床から基礎まで幅広い演題の発表がありました。大学院生による発表も多く、会場は熱気であふれていました。

懇親会も口腔病学会と共催でFaculty Loungeで行われ、参加者はM&Dタワー最上階からの夜景を楽しみ、旧交を温めたり、新たな協力関係を築いたりしていました。この会議がきっかけとなり、三大学の連携がさらに強固なものになることを祈念しております。■

✧ 先端材料評価学分野

教授 宇尾 基弘



第6回Tri-Universityコンソーシアム会議



ポスター発表の様子

【発行日】 2019年(平成31) 3月31日

【制作】 国立大学法人 東京医科歯科大学

統合国際機構国際交流課総務係 (E-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp)

<http://www.tmd.ac.jp/international/base/thai/index.html>

【本学タイ拠点所在地】

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,

11F Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,

Henri-Dunant Rd. Patumwan, Bangkok, Thailand

Newsletter

Vol. 13



チュラロンコン大学 - 東京医科歯科大学
研究教育協力センター

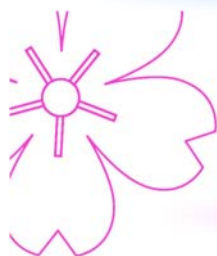


CU-TMDU Research and Education Collaboration Center, Thailand

November 30th, 2019

目次:

① 国際がん学会での基調講演	1
② マヒドン大学シリラート病院医学部とのJDP 協定 マヒドン大学JDP入学相談ブース	2
③ チュラロンコン大学とのJDP (国際連携歯学系専攻)	3
④ 高齢者歯科学分野でのチュラロンコン大学修士学生の研修	4
⑤ チュラロンコン大学歯学部リサーチデイへの参加	5
⑥ 歯学科学生のシーナカリンウィロート大学での短期研修	6
⑦ 口腔保健学科学生のマヒドン大学への派遣	7
⑧ 客員教授等の名称付与	8

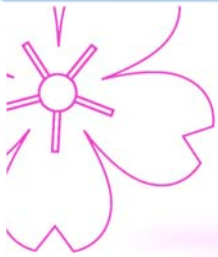


① 国際がん学会での基調講演

チュラボン王女国際がん学会 (Princess Chulabhorn International Oncology Conference) が2019年8月8日にバンコク市内で開催され、本学の吉澤靖之学長が「日本とタイにおける教育研究協力」について基調講演を行いました。このがん学会にはタイ全土から外科関係者が集まり、活発な学術交流が行われました。講演後には吉澤学長を含む外国人講演者に対しチュラボン王女から記念品の授与式が行われました。■



吉澤学長の基調講演の様子



② マヒドン大学シリラート病院医学部 とのJDP協定

本学とマヒドン大学（MU）が共同で準備を進めてきたジョイント・ディグリー・プログラム「東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻」（JDP）は、2019年6月26日に文科省から、またマヒドン大学審議会においても7月に設置認可を受け、日本及びタイの両国で開設が認可されました。8月7日には本学の学長一行がマヒドン大学を訪問し、シリラート病院医学部において本専攻開設にかかる協定書の調印式に出席しました。マヒドン大学のBanchong Mahaisavariya学長、Somchai Trakarnrung大学院研究科副科長、Prasit Watanapaシリラート病院医学部長、そして本学吉澤学長が協定書に調印し、2020年4月の開設が正式に合意されました。



協定書調印式

本専攻は、特になん治療に精通した外科学分野の専門知識を熟知し、医療ニーズの多様化に即応しうるリサーチマインドを持った、日本及びASEAN地域の医学・医療を牽引する高度専門医療人材を養成する4年制の博士課程です。最大の特色は、本学のがん治療に対する高度専門医療人材の養成のノウハウ及び高い研究力、マヒドン大学シリラート病院医学部の豊富な症例数とそれらを基盤とした臨床研究実績を活用し、実践的な教育を受けられることです。本専攻を修了した医師は、日本及びASEAN地域全体にみられる共通の課題の解決のため国際的に幅広く活躍することが期待されています。今秋から両大学にて募集を開始し、2020年4月には第一期生が入学する予定です。■



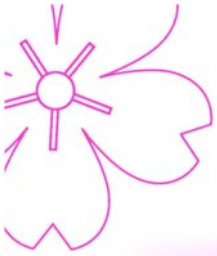
マヒドン大学JDP入学相談ブース



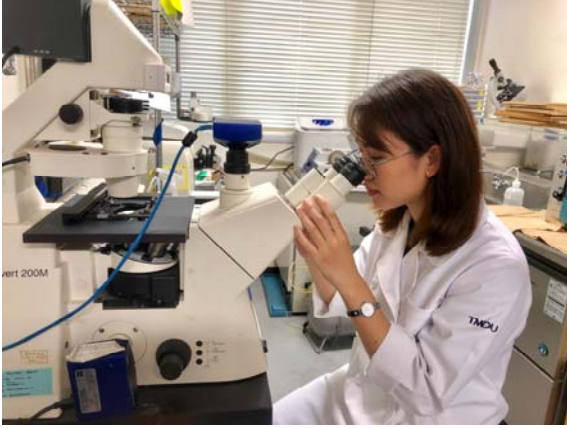
Dr. Issareeya Ekprachayakoonに本学JDP入学相談ブースで
ご協力いただきました。

2019年8月7日のマヒドン大学とのJDP開設にかかる協定締結後、8月8日、9日の2日間にわたり、チュラボン王女国際がん学会会場内に入学相談ブースを設置し、Issareeya本学客員助教の協力のもと、タブレットやフライヤーを用いたタイ語および英語による本プログラムの紹介、入学相談を行いました。当日は、学会に参加している医学部学生からレジデント、大学教員まで様々な層にアプローチすることができました。■

✦JDP推進部門長
教授 秋田 恵一



③ チュラロンコーン大学とのJDP (国際連携歯学系専攻)



JDP学生の本学での研究の様子 (Phanchanitさん)

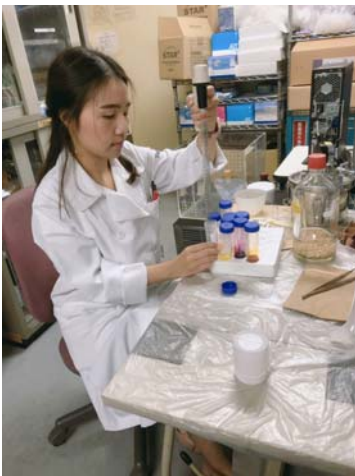
2019年6月から、2018年にJDPに入学したタイ人学生3名が本学の顎顔面矯正学分野及び咬合機能矯正学分野での研究を開始しました。学生たちは2020年5月までの1年間、本学にて研究データの収集・解析を行い、論文作成に取り組みます。本学滞在期間中は研究だけでなく、本学の留学生や日本人学生との交流をとおして、日本語や日本の文化等についても吸収できる良い機会となることを期待しています。

新たな入学生

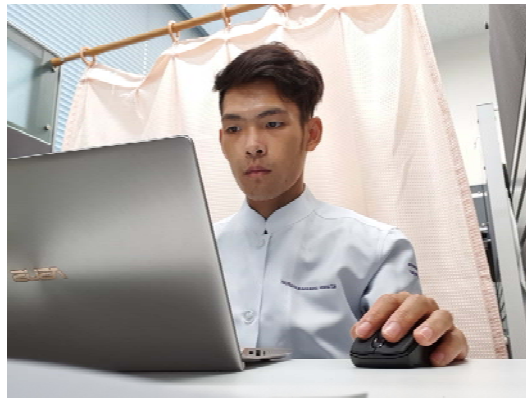
2019年度入学の募集については5名の出願があり、2019年2月から4月にかけて入学者選抜試験を行いました。筆記試験、ワイヤーベンディング試験、小論文試験及び面接

へて、合格者3名が8月に入学し、本専攻の在籍学生は合計12名となりました。その後、小野卓史教授、森山啓司教授がチュラロンコーン大学を訪問し、新入生ガイダンスを行いました。また、その際2016年、2017年の入学生との面談も行い、研究の進捗状況などを確認しました。■

✧咬合機能矯正分野
教授 小野 卓史



JDP学生の本学での研究の様子 (Panidaさん)



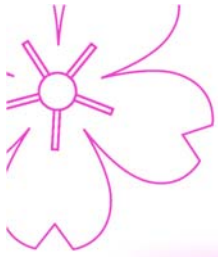
JDP学生の本学での研究の様子 (Kitanonさん)



JDP在籍学生と両大学の関係教員と



2019年8月に入学した学生と



④ 高齢者歯科学分野での チュラロンコーン大学修士学生の研修

2019年7月1日より7月11日までの11日間、高齢者歯科学分野においてチュラロンコーン大学歯学部修士学生を対象とした高齢者歯科研修コースを実施しました。本コースは2017年より毎年夏に開催しており、今年で3回目となります。今年度は4名の修士学生（2年生）がチュラロンコーン大学から参加しました。

本研修コースでは、例年、高齢者歯科学に関する総論の講義、全身管理や摂食嚥下に関する講義と臨床見学（外来診療・訪問診療）を行っています。また、高齢者歯科学分野の教員によるさまざまな研究領域に関するジャーナルクラブを企画・実施しています。

例えば、抗凝固薬服用患者の抜歯後出血に関する文献や、高齢者に多い根面う蝕に関する文献等の抄読です。また、昨年度から始めたチュラロンコーン大学修士学生の症例を基にした症例検討会について、今年度も実施しました。学生が事前に準備した自分の臨床症例についてプレゼンテーションを行った後に、日本とタイの高齢者歯科医療に携わる歯科医師がお互いに治療方針についてディスカッションをすることで、高齢者歯科治療に対する考え方や、治療方針の決定に際して留意すべき点などを確認し、共有することができました。

昨年同様、チュラロンコーン大学の学生は事前準備を含めて熱心に研修プログラムに参加しました。今年度は11日間という例年よりも少し短い期間でしたが、大変充実した内容となりました。来年度以降も引き続き、チュラロンコーン大学歯学部修士学生を対象とした高齢者歯科学分野での研修コースを計画しています。例年、実施したコース内容を確認し、次年度に向けて改善すべき点は改善し、準備を進めております。今後もこのような素晴らしい交流が継続されていくことを希望しています。■

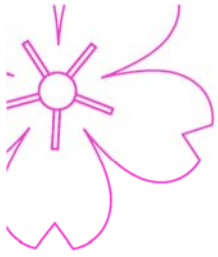
✧ 高齢者歯科学分野
助教 猪越 正直



本研修コースに参加した修士学生達と当分野の医局員



チュラロンコーン大学高齢者歯科学分野のOrapin先生と



⑤ チュラロンコーン大学歯学部 リサーチデイへの参加

2 019年2月7日から14日まで、永井重徳准教授（分子免疫学分野）の引率の元、大学院医歯学総合研究科博士課程の岩波佳緒里（顎顔面矯正学分野）、山田隆彦（顎顔面外科学分野）、和田あかね（口腔病理学分野）の3名がチュラロンコーン大学歯学部にて研修を行い、2月13日に開催された第31回 リサーチデイに参加しました。

歯学部での研修では、チュラロンコーン大学歯学部附属病院の口腔外科外来・手術室、高齢者歯科外来、審美・インプラント外来、矯正歯科外来、小児歯科外来などの病院施設の見学を行い、さらに学外の障害児童施設でのボランティア活動にも参加しました。

チュラロンコーン大学歯学部のリサーチデイは、学部学生および大学院生による研究発表会であり、教員による質疑と審査が行われ、本学からは参加した学生3名全員が英語にて口演で発表を行い、和田あかねと山田隆彦が、部門賞の1位及び3位をそれぞれ獲得する快挙を達成しました。永井重徳准教授は、舌下免疫療法における樹状細胞や組織球誘導に関する講演と口演発表の審査、およびポスター発表の座長を行いました。

今回の研修において、英語での口頭発表・質疑応答を行う機会を得られたこと、また、専門外来を見学し、大学院での自分の専門について日本とタイにおける違いを現地の先生方と討議できたことは、学生達にとって大きな経験となりました。

最後に、タイ語が全く分からない私達に対し、国際交流課のPrim先生や学部学生チューターの Earthさんと Palmさんをはじめ、病院見学やリサーチデイで出会ったチュラロンコーン大学の先生方、学生の方々はとても親身に接してくださり、大変充実した1週間の研修を遂行することができました。日本もタイと同様に非英語圏であり、来日した留学生や研究者の方々と接するにあたって、参考にしたい点が多々ありました。今回の研修で受けた多くの親切を、これから少しずつ返していきたいと思えます。 ■

✧ 分子免疫学分野
准教授 永井 重徳



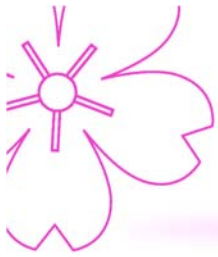
リサーチデイの会場にて



リサーチデイ授賞式の様子



リサーチデイ授賞式の様子



⑥ 歯学科学生の シーナカリンウィロート大学での短期研修



SWUの学部長と先生方、本学参加学生と随行教員



模型実習参加

歯

学部歯学科3・4年生の6名(谷本深雪、清水真優、杉山明優、高橋淳之介、田口優希、中村聡志)は、2019年8月21日-8月29日に、タイの首都バンコクにあるシーナカリンウィロート大学歯学部(SWU)において、短期海外歯科研修プログラムに参加しました。8月27日までは歯周病学分野の秋月達也講師が本研修に随行しました。

研修では大学附属病院での外来見学(小児歯科・一般歯科・口腔外科・矯正歯科等)や、SWU4年生とテンポラリークラウン作成の模型実習への参加、Oral Biologyの授業に参加してSWU学生と一緒に実験を行いました。

SWU学生に本学の学生生活についてプレゼンテーションをし、またSWU学生のプレゼンテーションを受けディスカッションを行い、英語による情報交換と相当理解を深めました。最終日は Teachers' Day Ceremonyにも参加しプログラムの修了証を授与されました。

また、文化交流としてタイの伝統的舞踊や伝統音楽(楽器)を体験する機会もあり、歯学について学習するだけでなく、外の文化に触れる機会もありました。

さらに先端医療施設である学内の私費治療専門クリニックを見学する機会もあり、タイの歯科事情や歯学教育を日本と比較しながら学ぶことができました。

本研修プログラムは2020年夏にも実施される予定です。■

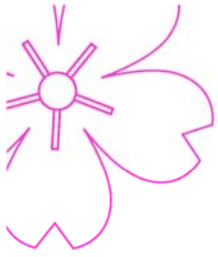
✧ 統合国際機構
助教 關 奈央子



Teachers' Day Ceremonyへの参加



タイの伝統的舞踊



⑦ 口腔保健学科学生 マヒドン大学への短期研修



学生によるプレゼンテーション



マヒドン大学歯学部附属病院の見学（学生臨床実習）

今年で3回目となる本プログラムは、マヒドン大学歯学部のPornpoj先生と樺沢を中心に相談を重ねて作成しました。マヒドン大学の歯学部で授業の聴講、歯学部附属病院、Golden Jubilee Hospital、コミュニティーヘルスセンター（Ban Wang Nam Khiao Health Center）、タイの開業歯科医院（Doctor Dentist）の見学、歯学科学生による小学校（Wat Samananab Borihan School）での訪問予防歯科処置実習の見学と補助を行いました。また、マヒドン大学歯学部のインターナショナルクラスの講義に参加して、本学学生はタイでの研修の感想や、日本での学生生活や歯科衛生士についてのプレゼンテーションを行いました。

参加した学生は、タイの口腔保健医療制度の現状や文化について多くの学びや知見を得られたことと思います。こうした学生の経験が将来の歯科医療ネットワーク国際的発展につながることを期待しています。■

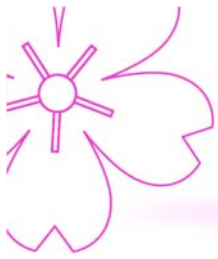
✧ 健康支援口腔保健衛生学分野
教授 樺沢 勇司



Ban Wang Nam Khiao Health Centerのスタッフと一緒に



学生交流



⑧ 客員教授等の名称付与

2 019年度の本学客員教員への名称付与を次のとおり行いました。

① 客員教授 Dr. Thiravud Khuhaprema

本学医学部を卒業し、タイ国立がんセンター所長などを歴任し、現在はバンコク病院ワタノソット・がん専門病院院長として活躍している。

② 客員教授 Dr. Prasit Watanapa

マヒドン大学シリラート病院医学部長

③ 客員准教授 Dr. Atiphan Pimkhaokham

本学大学院を修了し、現在はチュラロンコーン大学歯学部准教授。本学ではタイ拠点のコーディネーター職も委嘱している。

④ 客員助教 Dr. Issareeya Ekprachayakoon

本学大学院にて専攻生として学び、現在はバンコク市内にある複数の歯科医院にて日本語が話せる歯科医師として活躍中している。 ■

✧ 統合国際機構
機構長 田賀 哲也



Thiravud先生（左）と吉澤学長（右）

【発行日】 2019年(令和元年) 11月30日

【制作】 国立大学法人 東京医科歯科大学

統合国際機構国際交流課総務係 (E-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp)

<http://www.tmd.ac.jp/international/base/thai/index.html>

【本学タイ拠点所在地】

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11F Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,
Henri-Dunant Rd. Patumwan, Bangkok, Thailand

Newsletter

Vol. 14



チュラロンコン大学 - 東京医科歯科大学
研究教育協力センター

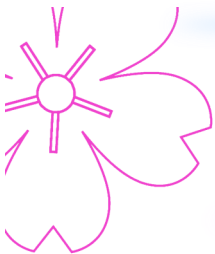


CU-TMDU Research and Education Collaboration Center, Thailand

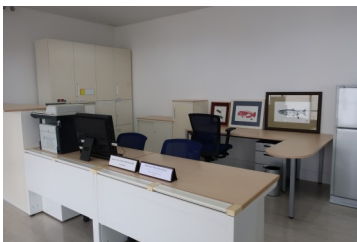
March 31st, 2020

目次

① CU-TMDUセンターの移転	1
② 医学科学生のタイ派遣	2
③ 保健衛生学科学生のタイ派遣	3
④ CU歯学部との打合せ	4
⑤ 国際歯科研修プログラム (IDP)	5
⑥ 国際歯科臨床教育コース (EECD)	6
⑦ タイ保健省歯科医師訪問団の来学	7



① CU-TMDUセンターの移転



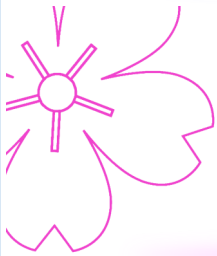
事務室コーナー



会議室コーナー及びTV会議システム

本学のタイ拠点であるチュラロンコン大学-東京医科歯科大学研究教育協力センター (CU-TMDU Research and Education Collaboration Center, Thailand) の部屋が移転しました。新しいオフィスは、これまでと同じ歯学部構内の建物の11階にあり、壁一面に大きな窓があり、とても見晴らしの良い部屋です。室内は事務室のコーナーと会議室のコーナーに分かれており、TV会議システムも整備されています。今後、お互いに顔を見ながら連絡や打合せを行うことができます。現在、チュラロンコン大学と本学との間で、ジョイント・ディグリー・プログラムが実施されていますが、入学試験や講義・セミナーなどの際に活用する予定です。また、センターでは本学への留学希望者に対する留学情報の提供も行っていきます。センターにはチュラロンコン大学歯学部准教授のDr. Atiphan Pimkhaokham (本学客員准教授) と助教のDr. Issareeya Ekprachayakoon (本学客員講師) が非常勤で勤務しています。本学からのCU訪問者や本学の元留学生 (JDAT) は、自由にセンターの部屋を使用できますので、あらかじめ国際交流課にご相談ください。■

✳ タイ拠点運営管理者 健康推進歯学分野 教授 川口 陽子



② 医学科学生のタイ派遣

本年度、医学科6年生の江口岳志君が外傷外科と小児科、高嶋吉朗君が外傷外科と形成外科にて、マヒドン大学シリラート病院で、2019年5月11日～6月8日の1ヶ月間の実習を行った。シリラート病院は、バンコクにあり、2500床以上をもつタイの最大規模の病院である。

医学教育から臨床現場まで、英語が広く使われており、学生たちは先生や学生から、回診やカンファレンスでその都度英語で教えられたとのことであった。この病院のような中核病院では、CT、MRIをはじめとした医療設備が整備されているが、学生は卒業後研修医として医療設備の整っていない地域でも働くことが求められているため、画像だけではなく、身体診察に重きを置いた実践的な教育がなされていた。学生たちも予診をとったり初療を担当しており、週に数回の夜勤があるなど、現場の医者と同じように働いていることがわかった。

外傷外科で経験した症例は動物噛傷（イヌ、ネコ、ブタ、ヘビ）、交通外傷、転落による高エネルギー外傷、様々な部位の切創・割創・挫創、角膜損傷、など多岐にわたっており、様々な処置も経験できたようだった。

また、小児外科や形成外科においても、本学では経験できないような多数ならびに多岐にわたった症例を経験でき、さらには、小児のHIV や結核、様々な母子感染など、多くの感染症の症例を経験し、予防やカウンセリングなどについて議論する機会をもてたということであった。

タイでの臨床実習は、日本で経験できないような症例を学ぶことができるとともに、指導体制も非常に良く、総合診療に興味のある学生や、いろいろ新しいことに積極的に参加していきたいという学生にとって非常に学修効果の高い環境であるということが、学生の報告から伝わってきた。学生の様々な報告を蓄積し、学生の希望に合わせた研修先を紹介できるようにしていきたい。■

✧ 医学科教育委員会 教授 秋田 恵一



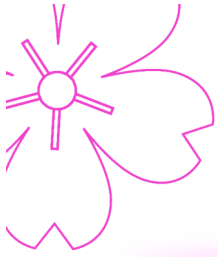
外傷外科での実習後の集合写真



外傷外科のKusuma Chinaronchai先生と



シリラート病院の学生との交流



③ 保健衛生学科学生のタイ派遣

医

学部保健衛生学科とチュラロンコーン大学(CU)保健医療学部は2013年11月に学生交流協定を締結して、2014年に学生派遣を行って以来、毎年8月から9月にかけて約10日間にわたり検査学生の派遣を行っている。これまでに検査学生25名(学部学生22名+大学院生3名:2014-2019年間)を派遣している。チュラロンコーンキング記念病院、赤十字血液センターの見学、研究セミナー参加以外は、学生は一人ずつ、研究室に配属され、研究実習を行っている。土日にはバンコク市内の王宮・寺院見学、アユタヤ遺跡の見学をCU学生と一緒にしている。文化交流では各自学生が様々なテーマに関して英語で発表し、日本文化の紹介などを行っている。学生にはCUよりiHouseが無償で提供されている。この学生交流の特徴は各学生が研究室に個別に配属されるためCU学生と密な交流が出来る点である。学生同士で一緒に市場に行ったり、LINEを交換し合ったりして相互の交流を深めている。この交流に参加した学部学生の一人が修士に進みトビタテ!留学JAPANの奨学金を得て1年間のCU保健医療学部ラボで留学を行っている。■

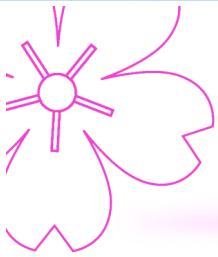
✧ 分子病理検査学分野
教授 沢辺 元司



CU大学でのClosing ceremony (2019年8月)



CU大学での研究実習 (2019年8月)



④ CU歯学部との打合せ

2020年2月6～7日の2日間、チュラロンコーン大学—東京医科歯科大学研究教育協力センターを訪問し、Suchit Poolthong歯学部長およびPrim Auychai先生（国際交流担当）と、2020年度に向けて国際交流に関する打合せ会議を行いました。

2020年5月には、チュラロンコーン大学歯学部は創立80周年を迎えます。キャンパス内に新しい歯科病院が建設されたり、外壁や建物に地元の高校生やアーティストとの連携で、歯に関連した壁画が一面に描かれており、構内整備が進んでいます。80周年の記念式典と合わせて、第7回Tri-Universityコンソシアム会議“Oral Health for Healthy Aging”が開催されます。また、学生が研究の成果を英語で発表するリサーチデイも開催される予定です。本学から多数の教員や学生が参加して発表を行う計画です。

11月には、チュラロンコーン大学の主催でSEAADE/IADR-SEA（東南アジア歯科医学教育学会／国際歯科研究学会東南アジア部門）がバンコクで開催されます。本学歯学部・大学院医歯学総合研究科では卒後プログラムを紹介する展示ブースを設置して、留学希望者に情報提供する予定です。

12月には、口腔病学会と連携して、本学において国際シンポジウムを開催する計画があります。これまで本学大学院で学んだ元留学生を世界各国から招聘して、“Prevention and treatment of dental caries and periodontal diseases -Current status and future perspectives-”というタイトルで、情報交換を行う予定です。タイからはシーナカリンウィロート大学のNarongsak Laosrisin先生と、チュラロンコーン大学のAtiphan Pimkhaokham 先生を招聘します。タイには日本の大学で歯学を学んだ帰国留学生の組織（JDAT: Japan Dental Alumni in Thailand）があるので、他にも多くのタイの元留学生が本学に里帰りして、学術交流する機会になると思います。■

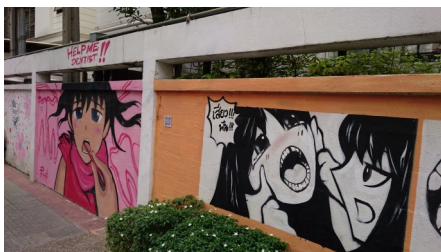


Suchit 歯学部長とPrim 先生との打合せ

✧ 統合国際機構 教授 森尾 郁子



← 歯学部を取り囲む外壁に描かれた絵



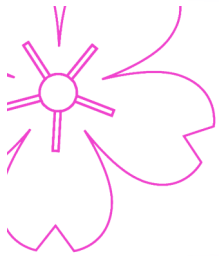
← 高校ごとにテーマを決めて1ブロックずつ描画



← お口を大きく開けて（タイ語）



歯学部の建物に大きく描かれた絵



⑤ 国際歯科研修プログラム (IDP)



教育に関するワークショップの後に参加者全員で

2019年8月25日～9月1日に、本学において国際歯科研修プログラム International Dental Program (IDP) を開催いたしました。キングス・カレッジ・ロンドン、ボストン大学、香港大学、ホーチミン医科薬科大学、インドネシア大学、国立台湾大学、ソウル大学と世界から学生が本プログラムに参加し、タイからは、チュラロンコーン大学2名、シーナカリンウィロート大学3名と、計5名の学生が参加しました。

プログラムでは歯学教育をテーマにしたワークショップなど様々な活動を通して歯科学士同士のネットワークを広げ、歯科医療技術・材料について学び、本学大学院研究室訪問を行い、文化交流会を通してお互いの異文化理解を深めるなど、活発な国際交流を行いました。

本学大学院研究室訪問に加え、在学の留学生と直接話す機会も提供され、研修プログラムに参加した海外学生が、自身の歯科大学卒業後の進路として本学大学院博士課程を選択するための情報提供も行いました。

国や大学を超え、歯科医療従事者になる学生同士、互いに交流し絆を深めることができる本プログラムが継続して行われ、学生時代から培う国際交流が今後の国際歯科医療ネットワークを強めていくことが期待されます。■

✧ 統合国際機構
助教 關 奈央子



KJ法を用いたグループディスカッション



研究室訪問



他己紹介をする参加学生



⑥ 国際歯科臨床教育コース (EECD)



EECD講義室の様子



EECD講義風景 1

本学では歯学系大学院生を対象に、2016年より完全英語履修で最新の臨床知識・技術を学ぶコース「Essential Expertise for Clinical Dentistry (EECD)」を提供しています。同コースは受講者から高い評価を得ており、開講通知後数日で申込み数が定員数をオーバーするほどの人気を博しています。タイからの留学生もEECDを受講しています。

今年度は2019年8月19日~29日の期間に夏期集中コースとして行い、テーマを「包括的審美歯科治療」とし、歯科保存学・歯科補綴学の4分野が講義とその内容に対応した実習を行いました。講義間のつながりに留意し、4分野で1) 最新の接着歯学に基づいた直接法コンポジットレジン修復による審美治療の到達点、2) 審美性を高めるための歯周形成外科とレーザー治療による歯肉の色調改善、3) 審美性に優れた歯冠補綴に求められる材料とその臨床応用方法、4) デジタルデンティストリーによる次世代型の補綴治療、についてコースを提供しました。

主に研究のために大学院に在籍している留学生ですが、在学期間中に歯科臨床についてアップデートし、また日本の技術・材料についても知っていただくことは大変重要だと考えます。EECDは2020年度も夏期集中コースとして行われ、多くの参加希望者が申込みを行うことが見込まれます。■

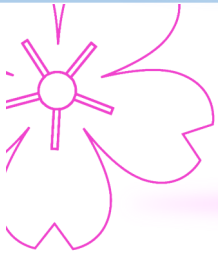
✧ 統合国際機構 助教 關 奈央子



EECDハンズオンコース 1



EECDハンズオンコース 2



⑦ タイ保健省歯科医師訪問団の来学

2019年8月27-28日、タイ保健省に勤務する歯科医師ら15名が本学を訪問いたしました。団長は、Dr. Somkuan Hanpatchaiyakul (Senior Advisor to the Health Technical Office, Ministry of Public Health) です。訪問の目的は、日本の高齢者に対する歯科保健対策について情報収集し、また、高齢者の口腔ケアに果たす歯科衛生士の役割について学ぶことです。現在のタイの平均寿命は約75歳と、日本（約85歳）と比較すると低いですが、急速に高齢化が進んでいます。そこで、保健省は日本を参考にして早急に高齢者対策を打ち立てることが必要と考えています。

タイには歯科看護師 (Dental nurse) という職種がありますが、彼らは全員公務員で、民間の施設で働くことはできず、地方の公立病院や保健センターで、主に歯科治療を提供する仕事についています。今後、保健省はすべての年齢層の人々を対象に口腔疾患の予防を提供できる歯科衛生士を養成する教育課程を新設しようと計画しています。

訪問団は歯学部附属病院における歯科治療の見学、口腔保健学科の歯科衛生士教育施設の視察、スキルスラボでの高齢者ロボットを使用した研修等を行いました。また、口腔保健学科の樺沢勇司教授（健康支援口腔保健衛生学分野）や品田佳世子教授（口腔疾患予防学分野）が、日本の歯科衛生士教育の現状や役割等について特別講義を行いました。健康推進歯学分野主催の国際セミナー“Comparison of Public health dentistry between Japan and Thailand”にも参加して、日本とタイにおける歯科公衆衛生に関する情報交換を行いました。さらに、東京都健康長寿医療センターを訪問し、地域の高齢者を対象とした健康増進プログラムの見学を行ったり、講義を受けたりしました。

日本で体験した研修の成果が、タイの高齢者の口腔保健施策を立案する際の参考になり、また、歯科衛生士教育の開始に役立つことを期待しています。■

✧健康推進歯学分野 教授 川口 陽子



タイの保健省からの訪問団



口腔保健学科での特別講義

【発行日】 2020年(令2年) 3月31日

【制作】 国立大学法人 東京医科歯科大学

統合国際機構国際交流課総務係 (E-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp)

<http://www.tmd.ac.jp/international/base/thai/index.html>

【本学タイ拠点所在地】

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11F Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,
Henri-Dunant Rd. Patumwan, Bangkok, Thailand

Newsletter

Vol. 15



チュラロンコン大学 - 東京医科歯科大学
研究教育協力センター

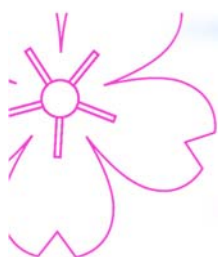


CU-TMDU Research and Education Collaboration Center, Thailand

September 30th, 2020

目次:

① 新拠点長からのご挨拶	1
② タイにおけるCOVID-19の感染症の状況	2
③ タイ歯科医療における「ニューノーマル」	4
④ マヒドン大学とのJDP (国際連携医学系専攻)	5
⑤ チュラロンコン大学とのJDP (国際連携歯学系専攻)	6
⑥ マヒドン大学とのDiscussion Café	6
⑦ シーナカリソウィロート大学とのDiscussion Café	7
⑧ CU保健医療学部からの短期学生受入	8



① 新拠点長からのご挨拶



秋田教授

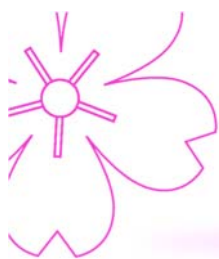
本学のタイ拠点は、これまでの歯学部の長い交流をベースに、川口陽子先生を中心に発展してまいりました。チュラロンコン大学 (CU) と本学 (TMDU) は1991年に歯学部間で、2002年に医学部間で学術交流協定を締結しており、25年以上にわたる学術交流の歴史があり、現在は大学間協定、CUの保健医療学部や工学部との交流協定も締結しております。このような交流実績に基づき、2010年に本学の海外拠点「チュラロンコン大学—東京医科歯科大学研究教育協力センター (CU-TMDU Research and Education Collaboration Center)」は、2010年11月23日にCU内に開設されました。

また、2018年にはマヒドン大学シリラート病院との医学部間での学術交流協定さらに大学間協定の締結をもとに、シリラート病院とのジョイント・ディグリー・プログラムの開講を目指す中で、本学オフィスTMDU-MU Partnership Siriraj Officeが開所いたしました。

現在、チュラロンコーン大学歯学部ならびにマヒドン大学シリラート病院との間にジョイント・ディグリー・プログラムが開設されており、その他の多くの大学との学術交流も発展しております。そのような中で、タイ拠点のオフィスは本学の東南アジア戦略拠点として重要な役割を果たすものと期待されます。しかしながら、本年のコロナ禍のため、人の往来が難しくなりました。これまで築き上げてきた関係を維持、発展させるためには、タイ国内で活躍する本学の同窓生の絆は重要です。この絆を深めていくような活動を進める必要があります。

国際交流にとって非常に難しい年となってしまいましたが、本学の国際的なプレゼンスの向上のためになる活動を検討し、実行していきたいと考えております。■

✧ タイ拠点運営管理者 臨床解剖学分野 教授 秋田恵一



② タイにおけるCOVID-19の感染症の状況

現在、タイでは新型コロナウイルスの新規感染者は確認されておらず、既感染者が合計3,390人、うち死亡者は58人で、国別感染者数は世界第117位となっています（2020年8月22日現在）。中国・武漢からの旅行者が最も多い国の一つでありながら、タイでこれほど感染者数が少ないのは驚異的です。タイにおける感染第1号は、2020年1月13日に発見された中国人旅行者からの感染です。その後、徐々に感染者数は増加し、3月6日に開催された格闘技ムエタイの試合に観客が集まったことで一気に増加しました。一週間後の新規感染者数は1日に100人を超え、3月26日の緊急事態宣言に至りました。しかし、厳重な措置を継続したおかげで、タイは新型コロナウイルス感染症の抑制に成功したのです。

新型コロナウイルスの感染者数、人口当たりの検査実施件数、対策の有効性等の情報をまとめた世界COVID-19指数（GCI、マレーシアの官民セクターが共同開発した世界の新型コロナウイルス感染状況を示す指数）によると、タイの回復指数は合計82.27ポイントで世界184カ国中1位となり、世界で最もウイルスの抑え込みが進んだ国の一つに位置付けられました。タイで感染抑制が実現した主な理由は、地域、郡、県、地方、中央など多くのレベルに分けて、以下のように厳重な監視体制を敷いたことです。

検疫・隔離場所での監視
感染の可能性のある人/感染が確認された人の監視
医師および医療従事者の監視
集団感染者の監視

新型コロナウイルスの検査で陽性判定者が出た場合、その陽性者の治療を行った病院および検査機関は、タイ仏暦2558年感染症法（2015年）に従って、タイ保健省疾病管理局（Department of Disease Control）、緊急オペレーションセンター（Emergency Operation Center）の状況認識チーム（Situation Awareness Team、以下SAT）に報告します。SATはそれを12時間以内にオペレーショングループに報告しますが、主な目的は診断の確定、感染源の特定と接触者の追跡、ならびに感染対策の実行と病気の管理です。

感染が確認された患者さんは詳細な行動履歴の調査を受けます。特に発症前14日間の旅行の有無及び行動と、病院の隔離病室での治療完了後14日間の行動については、それぞれ感染源特定と接触者追跡のため、徹底的に調査されます。患者さんと同じ空間にいた人や物理的に接触した人も調査を受け、接触者についてはハイリスク接触者とローリスク接触者の2つのグループに分けられます。接触者は14日間隔離しなければなりません。接触者は、発熱した場合すぐに疾病調査チーム（Disease Investigation Team）に報告し、徹底的に外出を自粛してどうしても必要ではない限りは自宅待機し、自分自身や周囲

の人々を守るために一日に何度も手を洗ってマスクを身に付け、疾病調査チームから毎日かかってくる電話で健康状態を報告します。

もう一つ、タイで迅速にハイリスクグループを選別して行動追跡を行い、状況を緩和することに大きく貢献したのが、タイ全土で活動する120万人のビレッジヘルスポランテニア（以下VHV）の存在です。この人々は、村健康促進病院（Subdistrict Health Promotion Hospital）のスタッフと協力して1,200万戸以上の家庭を個別に訪問し、情報を提供し、ソーシャルディスタンスを確保する戦略が必要であることを強調しました。リスクグループの選別に基づく行動追跡などを行い、コミュニティレベルで効果的に感染拡大を抑えて予防する必要があることを訴えたのです。タイのVHVが情報、ニュース、各家庭の行動・移動、リスクグループの分類を素早く把握する能力に対しては、WHOも賛辞を贈ったほどです。彼らは新型コロナウイルス感染症による危機からの脱出を支えた無名のヒーローであり、諸外国における感染対策のモデルとなり得る模範的事例でもあります。

病院では、医療スタッフが感染対策に非常に重要な役割を果たします。テレビ会議システムを使用した外来患者の診断、感染者の陰圧室への収容、PPE（個人防護具）の適切な使用、検査時の仕切り使用といった対策が広く採用されたことが、タイの病院における集団感染の予防に役立ちました。

タイでは、人々への外出自粛要請、在宅勤務の推奨、デパートやレストラン顧客の行動追跡アプリThaichanaの使用、公共交通機関の利用時に乗客間の距離を保つための対策、不特定多数の人々との接触制限の呼びかけなど、新型コロナウイルス感染症に対して数々の対策を講じました。これらの対策は、特に人口密度の高いバンコクでの感染者数減少に効果を上げ、感染拡大に弱い一部の施設は閉鎖されました。医療従事者は今も国、県、郡、コミュニティのレベルで感染症との戦いに備える態勢を崩していません。当局は、当初の検査補助予算が底をついた後、検査予算編成の基準緩和にも踏み込みました。現在は、国民医療保障庁（NHSO）からの予算が出ています。しかし、結局は人々の理解と協力が、新型コロナウイルス感染症の効果的な抑制に最も重要だったと言えます。■

＊マヒドン大学 シリラート病院、外科、低侵襲手術ユニット チーフAsada Methasate



病院の中でのソーシャル・ディスタンス。



③ タイ・ 歯科医療における「ニューノーマル」

新

型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミックによって世界が変わり、私たちの生活のあらゆる面はもちろん、歯科医療の面も大きな影響を受けています。

2020年3月23日から、タイのプラユット首相は新型コロナウイルス対策で非常事態宣言を発令し、ウイルス感染予防のため、人々が集う施設のデパートやレストランを閉鎖することを発令しました。最新の政府発表によると、非常事態宣言が9月末まで延長されましたが、現在は全ての業種の営業が再開され、人々は新しい生活様式「ニューノーマル」の日常に順応しつつあります。

現在、タイの感染拡大が一旦収まりましたが、タイ人は社会的距離を守ることやマスクを着用することなどの感染防止策をしっかりと講じ続けています。コロナ後に再開されたチュラロンコン大学歯科病院は「標準予防」に加え、「ニューノーマル」になった新型コロナウイルスへの対策について紹介します。

- ・受診する前に患者の体温を検温し、呼吸器症状の有無や海外渡航歴等について確認する。
- ・処置前に、患者をCOVID-19に対し有効性があるうがい薬によるガラガラうがいをさせる。
- ・ドクターとスタッフは、フェイスシールド・アイソレーションガウンなどのPPE(個人防護具)を着用する。
- ・エアロゾルを発生する処置を行う際に、口腔外のバキュームを使用する
- ・各診療室の定期的な換気を実施する

コロナウイルスに負けないように、チュラロンコン大学歯科病院は安全な歯科医療を提供続けています。■

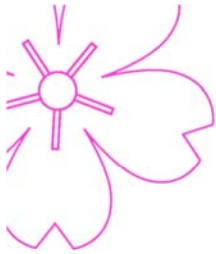
✧ チュラロンコン大学 客員助教 Issareeya Ekprachayakoon



左：院外・院内に実施する換気システム



ドクターとスタッフがPPE を着用する



④ マヒドン大学とのJDP (国際連携医学系専攻)

本学とマヒドン大学が4年にわたって共同で準備を進めてきた「東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻のジョイント・ディグリー・プログラム」は、2019年6月26日に文部科学省から設置が可とされた旨通知を受け、2020年4月に開設いたしました。

本専攻は、外科の専門医の資格を取得した医師のためのものです。がん治療に精通した外科学分野の専門知識を熟知し、医療ニーズの多様化に即応しうるリサーチマインドを持った、日本及びASEAN地域の医学・医療を牽引する高度専門医療人材の養成を目指しています。本学のがん治療に対する高度専門医療人材の養成のノウハウ及び高い研究力、マヒドン大学シリラート病院医学部の豊富な症例数とそれらを基盤とした臨床研究実績を活用し、高度な研究指導や実践的な教育を提供します。本専攻を修了した医師が、日本及びASEAN地域全体にみられる、超高齢社会における医療の高度化及び医療費の低コスト化、医療インフラの整備に伴う高度医療人材の育成、臨床医のリサーチマインドの醸成などといった、共通の課題の解決のため国際的に幅広く活躍することが期待されています。

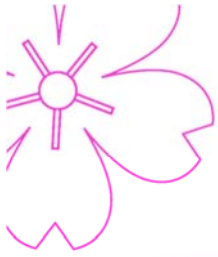
本専攻は、東京医科歯科大学とマヒドン大学がこれまで培ってきた教育・研究交流の実績を踏まえて構想・企画されたものです。本学とシリラート病院医学部との交流は、日本政府奨学金留学生として本学医学部を卒業し、大学院も修了したAsada Methasate先生が、タイ王国へ帰国後シリラート病院外科学教室の教員となったことをきっかけとして始まりました。これを契機に多くの外科医師が本学外科学講座にて研修をしたり、大学院に入学したりしたことで、関係を築いてきました。本学医学部、及び同大学院で学生として学び、また本学附属病院にて研修を受けた経験をもつシリラート病院医学部の教員等の意見を十分に聞き、教育カリキュラムはそれらを反映させたものとなっています。それにより、我が国とタイ王国の大学の高等医学教育や医療機関における専門的外科医療教育のグローバル化を見据え、高度な学術研究を基盤とした教育を展開するとともに、狭い範囲の研究領域のみならず、幅広く高度な知識・能力を身につけることができる体系的な教育課程となっています。

今年は、3人のタイ人医師が入学しましたが、新型コロナウイルス感染症のために、開設式、入学式等が中止となりました。タイとくにバンコクもロックダウンとなり、大学も閉鎖となっていたようですが、学生は病院で働く医師ですので、通常に近い形で病院勤務を続けていたようです。マヒドン大学の授業はオンラインでおこなわれていたようで、タイ側の単位の取得は行えておりますが、本学の授業の状況が十分ではなく、また今後学生が予定通りに日本に来られるかどうかは現在のところ不透明なところです。予定通りのプログラムの進行を目指し、マヒドン大学側とも協議しながら、進めていきたいと考えています。■



2019年夏に、バンコクで行われたジョイント・ディグリープログラムの入学説明ブースで。右から順に、シリラート病院外科のThawatchai Akaraviputh先生、Asada Methasate先生、昨年度統合国際機構長の田賀哲也先生、秋田教授

✧ タイ拠点運営管理者 臨床解剖学分野 教授 秋田恵一



⑤ チュラロンコーン大学とのJDP (国際連携歯学系専攻)



左から：2019年入学のSansanee Wijarn さん、Pornchanok Sangsuriyothai さん、Duangtawan Rintanalertさん。

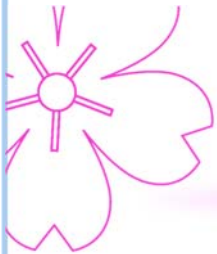
タイ・チュラロンコーン大学と本学とのジョイント・ディグリー・プログラム(JDP)も、早いもので5年目に入りました。2019年に入学した3名の学生は、2020年6月から、例年通り本学の咬合機能矯正学分野及び顎顔面矯正学分野で研究を始める予定でした。ところが、Covid-19の世界的感染拡大に伴い日本への入国が困難な状況になりました。

幸いにして、毎月1回定期的にwebを介して両大学間で開催しているコース管理委員会で協議し、3名の学生が本学において遂行する研究課題の内容確認を行いました。その結果、実験装置

の使用方法の習熟、データ解析方法の理解などをチュラロンコーン大学にて進めることになりました。そのため、本学教員がwebを介して学生とコンタクトを取り、習熟度のチェックや疑問に対する議論と解決など肌理細かい指導を行い、渡日後の研究がスムーズに進むよう準備を進めています。

Covid-19の世界的感染拡大という、これまで予期しなかった状況下においても学修が遅滞なく進むようこれからも適宜対応していく予定です。■

✧ 咬合機能矯正分野 教授 小野 卓史



⑥ マヒドン大学とのDiscussion Café

2020年6月9日(火)18時より2時間、大学間協定を締結しているタイ王国のマヒドン大学の医学部生15名(2年生～6年生)と、本学の学生15名(2年生～6年生)により、「Discussion Café」を開催いたしました。

この「Discussion Café」は、本学および国内外の提携校などの学生が一同に介し、複雑な国際保健問題の解決に向けて、人種や文化的背景、専門分野を超えた交流を通して、英語で徹底的に議論する国際交流イベントです。

今回はじめて、WEB会議システムZoomを用い、距離の壁を越えて実施された「Discussion Café」は、COVID-19によるコロナ禍のため留学を含め海外渡航が出来ない中で、国を超え、人種・文化・分野を超えた、幅広い視点とネットワークを獲得させる稀有な機会となりました。コロナ禍の中、このようなイベントを開催できたことは、通信技術の発展とこれまでの両大学の長年に渡る交流の賜物であり、人種や文化を超えた協働による国際問題解決に対する学生達の情熱と決意によるものといえます。



D-Cafe中の学生の様子



全体セッション (リフレクション)

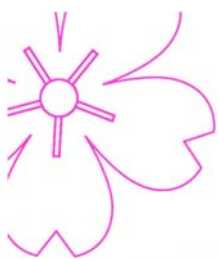
参加した学生は、互いの大学の紹介や自己紹介に続き、6人ごとの2大学混成グループに分かれ、「COVID-19への対応」に関する3つのテーマについて、学生主導で積極的に議論を進め、両大学の教職員が見守る中でプロダクト発表及び全体討論を行いました。

開催後に実施したアンケート調査では、「自分の英語力・スキルを再確認でき、モチベーションが高まった」、「文化の違いを越えた共通点を認識できた」といった学生の声が多く、人の移動を伴う交流が難しくなった現在の状況においても、社会に対する問題意識を高め、視野を広げ

ることができる、海外渡航に代わり得る、非常に価値のある刺激となったと確信できました。

今回のZoom Discussion Caféの成功は、ポスト・コロナ時代に向けた本学の国際交流の在り方を掴むきっかけの一つとして意義深く、更なる発展に向け、今後もより一層検討を重ねていく次第です。■

✧ 統合国際機構 グローバル化推進係



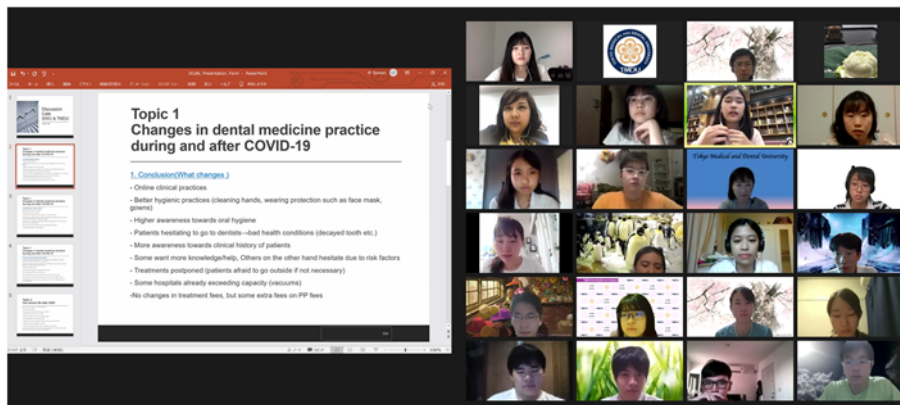
⑦ シーナカリンウィロート大学との Discussion Café

2020年8月26日、日本時間18時30分より2時間、本学とシーナカリンウィロート大学歯学部が集まり、「withコロナ/afterコロナにおける歯科医療」と「withコロナ/afterコロナの大学生活で不要なこと、必要なこと」という2テーマについて、英語で議論をするイベント“Discussion Café”を開催しました。同イベントには本学（医学科、歯学科、口腔保健学科、保健衛生学科）から20名（1-6年生）、シーナカリンウィロート大学歯学部から25名（2-6年生）の学生が参加しました。両大学の教職員やドクターが見守る中で学生主体のグループディスカッションと発表がオンラインで行われました。

シーナカリンウィロート大学とは毎年海外短期派遣や学生の受入を行なってきました。特に毎年夏期に学生を派遣していましたが、今年度の夏派遣は中止でした。このような状況下においてもオンラインでイベントを開催できたことは、これまでの両大学の交流実績によるものが大きく、タイ王国への派遣や受入が出来ない中での、オンライン“Discussion Café”は両大学にとって大変貴重な機会となりました。

人的移動が難しい今ですが、このような方法で協定校と交流を続けることは大変重要であると考えています。■

✧ 統合国際機構 關 奈央子 助教



グループディスカッション



⑧ CU保健医療学部からの短期学生受入

医学部保健衛生学科とチュラロンコーン大学(CU)保健医療学部は2013年11月に学生交流協定を締結して、2014年にCU学生の受入を行って以来、毎年6月から7月にかけて約10日間CU学生を短期受入している。これまでにCU学生52名(学部学生14名+修士学生26名+博士学生12名; 2014-2019年)、教員を受け入れている。本学再生医療研究センター、輸血・細胞治療センター、疾患バイオリソースセンター、医学部附属病院検査部/輸血部/病理部などの大学施設の見学、CU学生・教員による研究セミナー発表、生体検査科学セミナー参加などの行事が行われている。CU学生は個別に検査技術学専攻の分野(ラボ)に配属され、約3日間の研究実習を行っている。参加CU学生の一人は上記の研修後に共同研究のため、約100日間、本専攻のラボで実験を行った。CU学生が生体検査科学系分野に入ることにより、本学検査の大学院生は大きな刺激を受けて、かつ交流を楽しんでいる。■

✧ 分子病理検査学分野 教授 沢辺 元司



再生医療研究センター見学 (2019年7月)



フェアウェルパーティー (2019年7月)

【発行日】 2020年(令2年) 9月30日

【制作】 国立大学法人 東京医科歯科大学

統合国際機構国際交流課総務係 (E-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp)

<http://www.tmd.ac.jp/international/base/thai/index.html>

【本学タイ拠点所在地】

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11F Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,
Henri-Dunant Rd. Patumwan, Bangkok, Thailand

Newsletter

Vol. 16



チュラロンコン大学 - 東京医科歯科大学
研究教育協力センター



CU-TMDU Research and Education Collaboration Center, Thailand

March 31st, 2021

目次:

① この一年、そしてこれからの国際交流	1
② タイでのコロナとワクチンの状況	2
③ チュラロンコン大学とのJDP	3
④ マヒドン大学とのJDP	4
⑤ JDP4大学合同の教職員FD研修の開催	5
⑥ TMDUとタイ国との協定	6



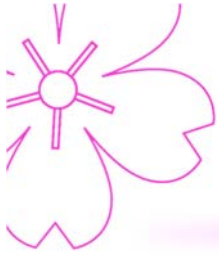
① この一年、そしてこれからの国際交流

我

国では、新型コロナウイルスの患者が見つかってから1年が過ぎました。この間に、1波、2波、3波という具合に徐々に高く大きくなる波に襲われ、さらには2度めの緊急事態宣言を体験することとなりました。海外からの入国制限、また海外でも入国後の自主隔離などの制限が続くなど、海外との往来は、それまでとは異なり、非常に難しくなりました。統合国際機構としても、海外大学との交流をサポートする部門だけに、コロナ禍のもとで、どのように進めていくのがよいのか、非常に大きな悩みとなっています。とくに、ジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）や学生の海外派遣など、海外大学との共同作業を前提としているだけに、今回のコロナ禍において、進めることの困難に直面しております。一方で、情報通信技術（Information and communication technology）の活用が進められています。技術そのものはもっと前からあったのですが、対面での会議や授業といったものの代替えというイメージが強かったものです。しかしながら、このコロナ禍を通じて、より良く活用することが検討され、かえって我々の空間的・時間的距離が縮まったように思います。

必要は発明の母とは、昔から言われておりますが、オンライン交流の充実を図るべく、様々な知恵を出していくことがもともとめられていると考えます。これからは、ワクチン接種も進み、従来の交流が回復していくのかもしれませんが、今回の経験で培った試みをさらに発展的に進めていけるよう、考えていきたいと思っております。■

※ タイ拠点運営管理者 臨床解剖学分野 教授 秋田 恵一



② タイでのコロナとワクチンの状況

ワクチン接種の開始

2021年2月22日時点の現在では、92の国で新型コロナウイルスワクチンの接種が始まりました。全世界で接種された新型コロナウイルスのワクチンは合わせておよそ2億万回分です。一方、タイ政府は2月28日にワクチンの接種を開始すると発表しました。

タイ政府は、中国・科興控股生物技術（シノバック・バイオテック）のワクチンを2月に20万回分、3月に80万回分、4月に100万回分輸入とし、医療従事者、感染率の高い地域在住者、高齢者及び慢性疾患保有者が優先されます。5月末には英製薬大手アストラゼネカと英オックスフォード大学が共同開発したワクチンをタイ国内で生産した2600万回分を供給することです。優先対象外の人たちは3月～4月に接種するとし、21年末までに少なくとも50%の国民がワクチン接種を受ける事を目指しています。

ワクチンパスポート

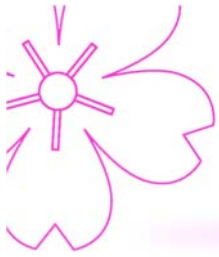
タイ国内の各産業は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け続けていますが、とりわけ観光業は大きな痛手を受けています。2月中にタイ政府観光庁(TAT)は、観光事業を復活させるために、新型コロナウイルスのワクチン接種をすることで14日間の隔離検疫なしでタイ旅行を可能にする、「ワクチンパスポート」の提案をしていました。観光事業は壊滅的な被害を受けているため、観光業で働くスタッフは、医療従事者と同じく最初のフェーズでワクチン接種され、プーケット島はこのシステムを実施する最初の県で、これが成功すれば他の観光地でも実施するといった提案もありました。

一方、ワクチンパスポートはWHO（世界保健機関）ではまだ検討中であり、ワクチンパスポートの具体的な枠組みはまだ推奨していません。タイ保健省疾病対策局の最新声明によると、ワクチンの効果を示す証拠がまだ不足しており、入国の条件としてワクチン接種証明書の提示は要求されるべきではないとしています。ワクチンの有効性に関する十分な情報があれば、タイはワクチンパスポートを採用する可能性があります。このアイデアは再度検討のため、タイ政府はワクチンパスポートの発行について、3月8日に話し合うとしています。■

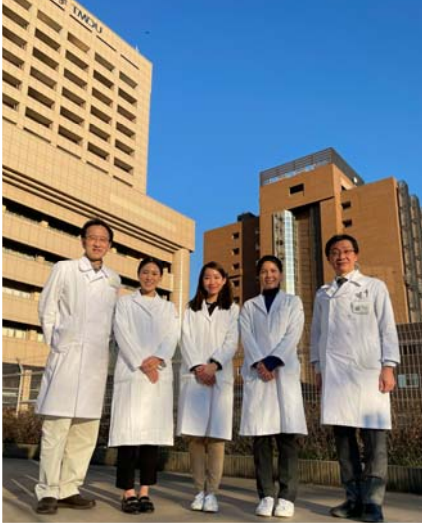


国立病院でCOVID-19のワクチンを受ける医療関係者の様子。

* チュラロンコーン大学 客員講師 Issareeya Ekprachayakoon



③ チュラロンコーン大学とのJDP



2019年入学生と指導教員

学生の受入

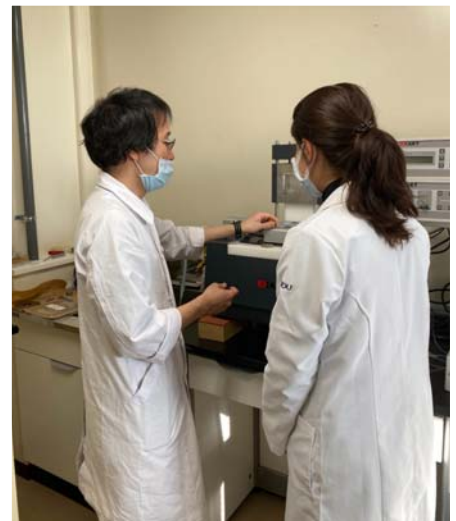
2 020年11月に、2019年入学生が本学での学修を開始しました。通常であれば毎年6月に来日するところ、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、来日が延期されました。来日するまでの間、学生はチュラロンコーン大学において研究に必要な手技などの遠隔ならびに現地指導を受け、本学での研究を滞りなく開始することができました。来日が遅れた場合でも本学での研究期間は1年を確保するため、学生は2021年10月末まで本学で学修することになります。

学位論文審査への道

本専攻では学位論文審査までに2つの試験を課しています。1つ目は1年次末までに実施する進級試験、2つ目は2年次末までに実施する論文企画試験です。学生は研究テーマ及び研究の進捗についてプレゼンテーションを行い、両大学の評価委員がアドバイスを行います。これは本専攻の特徴的な仕組みで、学生が客観的に自身の研究について確認し、確実に学位論文審査に向けて研究及び論文を執筆するにあたり役立っています。在学学生はいずれも予定どおりに各試験に合格しており、2016年入学生（第1期生）の学位論文審査を同年5月から6月に予定しています。また、2021年3月に、2020年入学生の進級試験が行われる予定です。

プログラムの改善に向けた取り組み

本プログラムでは、毎年、自己点検・評価、外部評価、教職員FD研修を行っています。自己点検・評価は2020年11月から2021年1月にかけて実施しました。評価の項目は大分類3つ、小分類8つがあり、会議体、方針、評価体制、入学者選抜、学生支援などについて評価を行います。この自己点検・評価報告書をもとに、外部評価を2021年2月から3月にかけて実施しました。外部評価はプリンスオブソンクラー大学の教員と広島大学の教員に依頼をし、評点及び改善のための提案をいただいています。教職員FD研修については、今年は初の試みで、チリ国チリ大学とのJDP、タイ王国マヒドン大学とのJDPと合同で開催予定です。■



本学での研究指導の様子

✧ 咬合機能矯正分野 教授 小野 卓史



④ マヒドン大学とのJDP

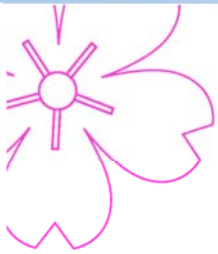


本学教員と一期生との面談の様子

9月30日、タイ王国マヒドン大学と本学とのジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）に、4月に第一期生として入学した3名と、本学教員との間で入学後初となる面談が、ビデオ会議（Zoom）にて行われました。面談は新型コロナウイルス感染拡大の影響で懸念されていたマヒドン大学での履修及び研究計画の進捗状況の確認をするために行われたものです。本学では、4月から5月までの緊急事態宣言の中、研究活動に制限があり、授業などもすべてオンラインで行われるようになるなど、カリキュラムの様々な変更を余儀なくされました。また、マヒドン大学でもオンライン授業などが取り入れられているとのことでした。

面談には、本学からは、プログラム責任者である秋田教授、指導教員である田邊教授、三宅教授、田賀教授が参加しました。科目履修については、コロナ禍においてもオンラインツールを利用して予定を組み替えながらも進められること、研究については、日本への滞在が不透明な中、マヒドン大学を拠点として研究を進める準備が整っていることについてといった、コロナ禍においてもプログラムが円滑に進んでいる様子が学生から伝えられ、マヒドン大学側の迅速な学修及び研究環境整備の成果と、第一期生の当プログラムへの意欲の高さを実感する機会となりました。また、最後に本学教員との質疑応答が行われ、今後の本学滞在に向けた情報共有とともに、お互いにコミュニケーションを取るための貴重な機会となりました。スタートしたばかりの当プログラムは、マヒドン大学の協力の元、順調な滑り出しを見せています。■

✧ タイ拠点運営管理者 臨床解剖学分野 教授 秋田 恵一



⑤ JDP 4大学合同の教職員FD研修の開催 (Faculty Development Seminar 2020)

教員の能力向上と意識共有を行うために、本学のJDP各専攻で毎年行われていた教職員FD研修ですが、3月に初の試みとなるJDP 3専攻（チュラロンコン大学、チリ大学、マヒドン大学）合同で行いました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、講演者は各大学にて講演を行うことになりましたが、時差の関係からリアルタイムでの開催が難しいため、各講演者の講演動画を一本の動画に集約し、各大学にてオンデマンドで開催することとなりました。本学からは秋田恵一教授に講演をいただき、コロナ禍における本学の教育・研究への取り組みを中心に講演をいただきました。本学ではこの動画をWebClassに掲載し、Infoにて全学に周知し、たくさんのご視聴をいただくことができました。また、各連携大学においてもたくさんの方にご視聴をいただくことができ、研修を通して本学の教育・研究への取り組みを世界に発信できる素晴らしい機会となりました。■

✿ 統合国際機構 国際交流課 JD・MPH係

University of Chile, Chulalongkorn University, Mahidol University and TMDU
Joint Degree Doctoral Program in Medical Sciences

**Faculty
Development
Seminar
2020**

For all employees and students
March, 2021

University of Chile, Chulalongkorn University, Mahidol University and TMDU present



Taking Down The Splenic Flexure in Lap Colorectal Surgery: Why, When and How?

Dr. Mario Antonio Abedrapo Moreira
- M.D., Chief of the Coloproctology unit, Associate Professor
- Coloproctology Unit, Clinical Hospital Universidad de Chile,
Coloproctology Unit, Clínica Las Condes



The role of Thai Royal Dental College in graduate studies in Thailand

Dr. Pornchai Jansisyanont
- D.D.S., M.S., Ph.D., Dean, Associate Professor
- Department of Oral and Maxillofacial Surgery from Chulalongkorn University



Joint and double PhD programs in Mahidol University

Dr. Thawornchai Limjindaporn
- M.D., Ph.D., Deputy Dean of Postgraduate Education, Associate Professor
- Department of Anatomy from Mahidol University

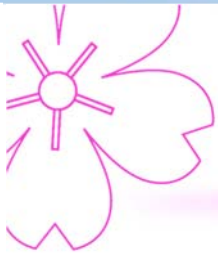


Changes in Education and Research activities in TMDU by Covid-19 pandemics

Dr. Keiichi Akita
- M.D., Ph.D., Deputy Director, International Exchange,
Division Head, Joint Degree Program Advancement Division, Professor
- Department of Clinical Anatomy from TMDU

Inquiry: JD&MPH unit: jd@ml.tmd.ac.jp

Inquiry: Joint Degree Team, Educational Planning Section (Ext 4678)



◎ TMDUとタイ国との協定

本学とタイ国の大学及び機関と交わしている協定を紹介させていただきます。全てで8つの機関と大学間及び部局間協定（学術・学生）を合わせ合計21件を締結しています。また、チュラロンコーン大学及びマヒドン大学とはJDPも結んでいます。■

✧ 統合国際機構 国際交流課 総務係

大学間	チュラロンコーン大学	Chulalongkorn University	学術
部局間	チュラロンコーン大学 歯学部	Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University	学術 学生
部局間	チュラロンコーン大学 保健医療学部	Faculty of Allied Health Sciences, Chulalongkorn University	学術 学生
部局間	チュラロンコーン大学 工学部	Faculty of Engineering, Chulalongkorn University	学術 学生
大学間	マヒドン大学	Mahidol University	学術
部局間	マヒドン大学 シリラート病院 医学部	Faculty of Medicine, Siriraj Hospital, Mahidol University	学生
部局間	マヒドン大学 ラマチボディ病院 医学部	Faculty of Medicine, Ramathibodi Hospital, Mahidol University	学術 学生
部局間	チェンマイ大学 歯学部	Faculty of Dentistry, Chiang Mai University	学術
部局間	チェンマイ大学 医学部	Faculty of Medicine, Chiang Mai University	学術 学生
部局間	ソンクラ王子大学 歯学部	Faculty of Dentistry, Prince of Songkla University	学術
部局間	ナレスワン大学 歯学部	Faculty of Dentistry, Naresuan University	学術 学生
部局間	シーナカリンウィロート大学 歯学部	Faculty of Dentistry, Srinakharinwirot University	学術 学生
部局間	コンケン大学 歯学部	Faculty of Dentistry, Khon Kaen University	学術
部局間	国立がんセンター	National Cancer Institute, Thailand	学術

【発行日】 2021年(令3年) 3月31日

【制作】 国立大学法人 東京医科歯科大学

統合国際機構国際交流課総務係 (E-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp)

<http://www.tmd.ac.jp/international/base/thai/index.html>

【本学タイ拠点所在地】

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11F Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,
Henri-Dunant Rd. Patumwan, Bangkok, Thailand

Newsletter

Vol. 17



チュラロンコン大学 - 東京医科歯科大学
研究教育協力センター

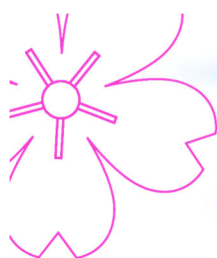


CU-TMDU Research and Education Collaboration Center, Thailand

September 30th, 2021

目次:

① 改善の期待	1
② タイにおけるCOVIDの状況	2
③ 2021年4月第2期生の入学	3
④ 第1期生コースワーク修了・論文企画審査	3
⑤ JDPのHPリニューアル	4

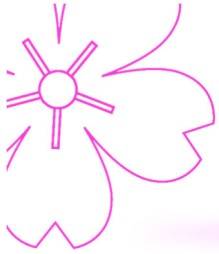


① 改善の期待

新型コロナウィルス感染症の拡大は、終息の兆しがなかなか見えない日々が続いております。前回のニュースレターの時には、第3波の訪れでありましたが、その後に4波、5波と、寄せては返す波のように現れ、その大きさは次第に大きくなっていました。東京では7月から9月にオリンピック、パラリンピックが開催されましたが、我々の日常生活の状況はまだ改善には至っていない状況です。しかし、日本ではワクチンの接種率が上昇しておりますことから、今後の状況の改善が期待されます。統合国際機構として、ジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）の学生の本学での学習機会をどのように確保していくかを最優先に、関係省庁からの連絡に基づき検討しています。来年度からの学生の派遣や受け入れについては、感染状況の見通しが十分ではないため、なかなか決定には至っていません。

このような中でも、JDPの学生の確保や、将来にわたっての国際交流の継続は非常に重要な課題であります。統合国際機構では、JDPについてのHPの作成をおこなってまいりました。また、大学の紹介ビデオも作成しました。さらに、本学に留学している学生に国際交流広報アソシエイトになっていただき、母国の学生に本学を紹介していただくことにしました。現在の国際交流が限られた状況こそ、今後も交流の準備を進めていくことが重要だと考えています。■

* タイ拠点運営管理者 臨床解剖学分野 教授 秋田 恵一



② タイにおけるCOVIDの状況

コロナウイルス感染症の流行第3波を迎えているタイで、今年の4月からコロナウイルスの感染者は連続的に増えている状況になっています。

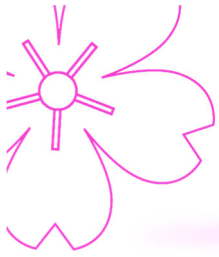
タイ政府は新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、非常事態宣言を発令し、バンコクとその近郊都市などは夜間外出禁止や移動制限で、ロックダウンの状態に置かれています。さらに、新型コロナウイルス感染による重症化および死亡する患者を減らすため、ワクチン接種の迅速化や効率的なワクチンの調達などに取り組んでいます。2021年9月上旬現在では、1日当たりの新規感染者数は平均で1万3000人前後となり、連日2万人を超えていた8月中旬に比べて少し減少傾向にあります。

タイの入国規制については去年と変わらず、全ての渡航者はタイ入国後の14日間隔離と入国前に入国許可書（COE）の取得が必須です。一方、今年の7月1日よりタイ政府は隔離措置免除の観光復興プログラム「プーケット・サンドボックス」を実施しています。ワクチン接種完了済みなどの一定条件を満たす外国人観光客は、プーケット国際空港からタイへ入国する場合に限り、隔離なしでプーケット島に滞在することができるようになりました。14日間以上プーケット島滞在后、所定のPCR検査で陰性であれば、タイ国内の他の地域への移動することが可能となります。■

✧ チュラロンコーン大学 客員講師 Issareeya Ekprachayakoon



新型コロナワクチン接種のスピードを加速させるために、医療資格を持つ訓練されたタイ歯科医師たちは「注射ボランティア」としてタイ国民にワクチンの注射を担っています。



③ 2021年4月第2期生の入学

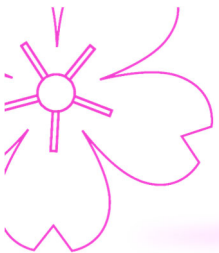


入学ガイダンスの様子

東 京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻（以下マヒドン大学JDP）の2021年4月入学者選抜試験には5名が出願しました。同年1月20日に、マヒドン大学及び東京医科歯科大学による合同面接試験が行われ、当専攻の第2期生として3名が合格しました。第1期生3名全員がマヒドン大学出身だったのに対し、今回合格した第2期生は3名のうち2名がマヒドン大学以外の出身者であり、当専攻への関心がタイ国内の外科分野で徐々に広がっていることがわかります。

5月28日には入学ガイダンスが行われ、本学からプログラム責任者である秋田教授と田邊教授が参加いたしました。第2期生3名は教員から学位取得に向けたアドバイスを受け、自身の研究課題を見据えながら当専攻のスタートを切ることとなりました。■

✧ タイ拠点運営管理者 臨床解剖学分野 教授 秋田 恵一

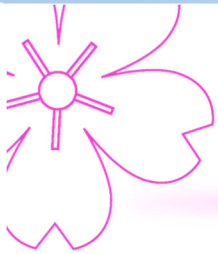


④ 第1期生コースワーク修了・論文企画審査

マ ヒドン大学JDP 2020年4月入学第1期生3名は、入学直後に新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けましたが、当初の予定を組み替え、さらにオンラインツールを利用して科目の履修を進めた結果、カリキュラム通り2021年6月に全てのコースワークを修了しました。

第1期生3名はその後、9月にマヒドン大学での進級試験に合格し、10月に当専攻初となる論文企画審査を受審します。論文企画審査は、博士論文の作成を行うにあたり、思考過程を表現する能力、分析力、問題解決能力を備えており、自力で研究を構築する準備が整っていることを確認することにあります。第1期生3名は、自身の研究課題及び研究計画のプレゼンテーションを行い、マヒドン大学及び東京医科歯科大学の指導教員により構成された評価委員から今後の研究活動に生かすためのアドバイスを受ける貴重な機会となります。■

✧ タイ拠点運営管理者 臨床解剖学分野 教授 秋田 恵一



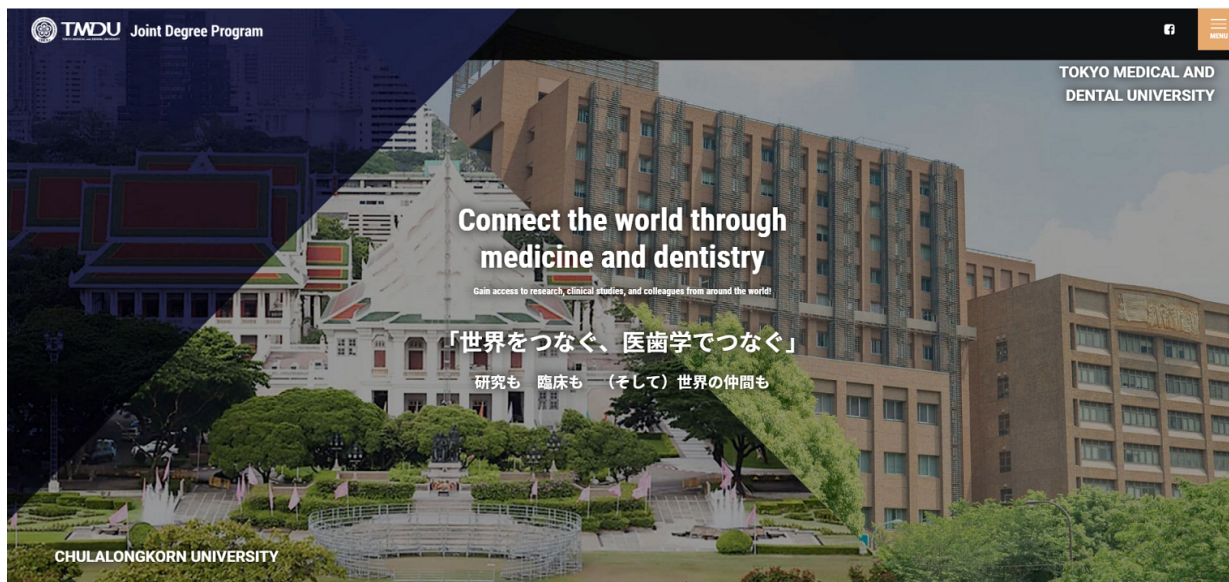
⑤ JDPのHPリニューアル

東京医科歯科大学が国際連携大学（チュラロンコン大学、マヒドン大学、チリ大学（チリ））とそれぞれ共同で単一の学位を授与するジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）のホームページがこの度リニューアルしました。

各プログラムの概要、カリキュラムや魅力、学生及び教員のメッセージ動画やインタビュー記事などが掲載されていますので、本学のグローバル教育に興味のある方は是非ご覧ください。■

URL : <https://www.tmd.ac.jp/cmn/jdp/>

* 統合国際機構 国際交流課 JD・MPH係



JDPのHPのHOME画面の様子

【発行日】 2021年(令3年) 9月30日

【制作】 国立大学法人 東京医科歯科大学

統合国際機構国際交流課総務係 (E-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp)

https://www.tmd.ac.jp/international/globalization/tmdu_international_collaboration_centers/thai/

【本学タイ拠点所在地】

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11F Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,
Henri-Dunant Rd. Patumwan, Bangkok, Thailand

Newsletter

Vol. 18



チュラロンコン大学 - 東京医科歯科大学
研究教育協力センター

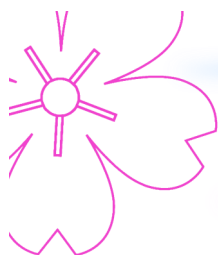


CU-TMDU Research and Education Collaboration Center, Thailand

April 28th, 2022

目次:

① 今後の期待	1
② タイ、入国隔離免除を停止 オミクロン株の拡大警戒	2
③ JDP4大学合同の教職員FD研修の開催	3
④ マヒドンJDP 第二期生との面談	4
⑤ チュラJDP学位論文審査・試験	5

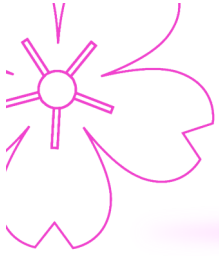


① 今後の期待

2020年1月頃より始まった新型コロナウイルス感染症は、国内においては波の強弱があり、この原稿を書いている現在は第6波がやっとピークを越えたという段階です。この2年間、新型コロナウイルス感染症の状況ばかりが気になりました。国際的な人の交流が減少しました。2021年に延期された東京オリンピックの頃には改善されるかと期待されましたが、そうもいきませんでした。人的交流はずっと制限されたままでした。チュラロンコン大学とのジョイントディグリープログラム（JDP）の学生の来日の予定も大幅に遅れ、滞在期間も短くなっている状況です。また、マヒドン大学のJDPの学生の受け入れ日程についても明確に決めることができません。これらは、日本政府の外国人留学生の受け入れ状況によるものではありませんが、JDPの充実のためにはどのようにしてカリキュラムの順調な運営を行っていくかという観点から、十分に考えていく必要があります。

このように、様々な問題も生じてはおりますが、JDPそのものは、オンライン教育やテレ会議などによって順調に運営されています。また、学部学生の交流がなかなかできない状況ではありますが、オンライン学生交流会なども行われるなど、少しでも学生の交流機会を増やすべく努力を行っております。コロナ禍と言われる状況ではありますが、これまであまり考えられてこなかったような新しい発想での関係が様々に作られています。多くの知恵を絞り、前例の身にとらわれずに、国際的教育活動の将来のあるべき姿を創造していきたいと考えています。■

*タイ拠点運営管理者 臨床解剖学分野 秋田 恵一教授



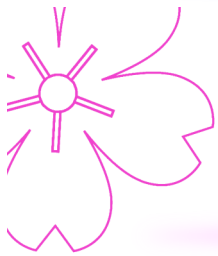
② タイ、入国隔離免除を停止 オミクロン株の拡大警戒

2021年4月から始まったタイの感染拡大第3波は、8月中旬のピークにわたって感染者の減少傾向が続いていましたが、2022年1月から感染者が増加傾向に転じ、現時点で、1日あたりの新規感染者は1.5万人を超え、増加し続けている現状にあります。

タイ外務省は2021年11月から隔離免除でタイに入国できる国・地域（日本を含む）リストを発表しました。ワクチン接種完了などを条件に「テスト・アンド・ゴー」の入国システムの運用を開始しましたが、2021年12月から新型コロナウイルスの変異株「オミクロン株」の感染拡大を受け、隔離免除の入国システムを一時停止しました。現時点（2022年2月）、新規感染者数まだ増加傾向にあります。一方で、重症者数や死亡者数が予想を下回ることから、タイ政府は経済の活性化に向け、旅行者の受け入れ拡大を目指し、隔離免除の入国システムを再開しました。再開後の変更点については、隔離免除の対象をすべての国と地域に拡大するほか、到着後に1度だけだったPCR検査の回数を増やし、一定期間に2度受けることを必要とされています。上記は、3月1日から緩和する計画であると報じました。■

✽チュラロンコーン大学 客員講師 Issareeya Ekprachayakoon





③ 「JDP4大学合同の教職員FD研修の開催」

本学のJDP専攻では、毎年様々な分野の教員が講師となって、JDP専攻を開講している大学の全教員に知識や知見、経験を共有し、それぞれの大学の教育や研究にフィードバックを行うという目的で、毎年3月にFaculty Development Seminarを開催しています。

今年度はコロナ禍を鑑み、昨年度と同様に本学とJDPの連携大学であるチュラロンコン大学、マヒドン大学、チリ大学と共に4大学合同で作成した研修用動画をオンデマンドにて各大学で配信する形で実施しました。オンライン指導の問題点とその解決策を共有するため、「オンライン環境と評価」を共通テーマとし、各大学から選出された教員が行った講演を1本の動画に集約し、2022年3月22日から3月31日の期間に渡り、各大学で配信しました。

教員の能力向上と併せて、コロナ禍における各大学の教育現場の実態や対策を共有し、今後のコロナ対策の参考となる良い機会となりました。 ■

✧ 統合国際機構 国際交流課 JD・MPH係

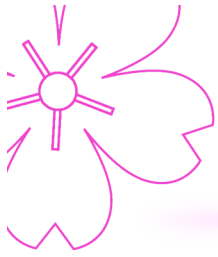
Faculty Development Seminar 2021

For all employees and students
March, 2022

Chulalongkorn University, Mahidol University, University of Chile, Clínica Las Condes and TMDU present

	Online Education: Learning, Assessment, and Student Misconduct Dr. Supachai Chuenjitwongsa -Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University -D.D.S., Ph.D., Assistant Professor
	How COVID-19 affect the JDP program Dr. Vitoon Chinswangwatanakul -Minimally Invasive Surgery unit, Department of Surgery from Mahidol University -M.D., Ph.D., MU representative in Program Administrative Committee, Chief of Division of General Surgery, Associate Professor
	Dr. Asada Metasate -Minimally Invasive Surgery unit, Department of Surgery from Mahidol University -M.D., Ph.D., Associate Professor
	Impact of COVID-19 & Education: Chile Experience Dr. Juan Pablo Torres Torretti -Department of Pediatrics, Clínica Las Condes/Hospital Luis Calvo Mackenna Faculty of Medicine, University of Chile -M.D., Ph.D., Director of Innovation, Associate Professor
	Challenges due to COVID-19 Dr. MORIO Ikuko -Dental Education Development, Graduate School of Medical and Dental Sciences, and Institute of Global Affairs Tokyo Medical and Dental University (TMDU) -D.D.S., Ph.D., Professor

Inquiry: JD&MPH unit: jd@ml.tmd.ac.jp



④ 「マヒドンJDP 第二期生との面談」

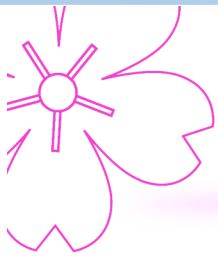


2021年11月24日、マヒドン大学JDP 2021年4月入学第2期生3名と、学生の研究テーマを考慮し選定された本学及びマヒドン大学の研究担当教員との間で、今後の研究計画について話し合い、指導を行うための面談が行われました。

第2期生3名は自身の研究課題及び研究計画のプレゼンテーションを行い、両大学の研究担当教員から今後の研究計画について意見交換、及び具体的なアドバイスを受ける貴重な機会となりました。

今後も両大学の研究担当教員が連携しながら指導を行い、研究遂行に必要な知識・技術の習得を進めていきたいと考えております。 ■

✧ 統合国際機構 国際交流課 JD・MPH係

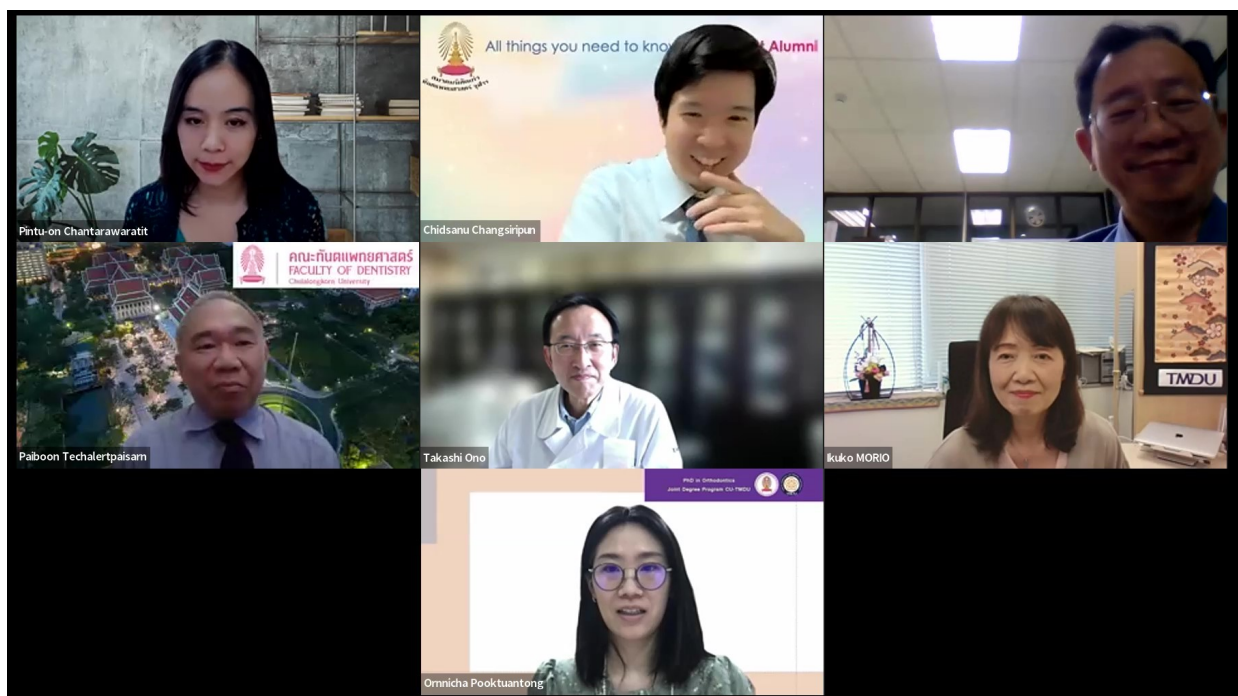


⑤ 「チュラJDP学位論文審査・試験」

本専攻では、学位論文審査までに2つの試験（進級試験、論文企画試験）を課しています。2021年7月に2016年入学（第1期生）3名のうち2名が修了しており、残る1名も2022年3月28日に学位論文審査を行い、無事合格した暁には第1期生全員が修了したことになります。

また、学位論文審査と同日に2021年入学生（第6期生）の進級試験、2021年11月29日に2019年入学生（第4期生）の論文企画試験が行われ、いずれも全員が合格しています。第1期生に続き、着々と本専攻修了への道を歩んでいます。■

✧ 統合国際機構 国際交流課 JD・MPH係



【発行日】 2022年(令和4年) 4月28日

【制作】 国立大学法人 東京医科歯科大学

統合国際機構国際交流課総務係 (E-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp)

https://www.tmd.ac.jp/international/globalization/tmdu_international_collaboration_centers/thai/

【本学タイ拠点所在地】

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,
11F Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn
University,
Henri-Dunant Rd. Patumwan, Bangkok, Thailand

Newsletter

Vol. 19



チュラロンコン大学 - 東京医科歯科大学
研究教育協力センター

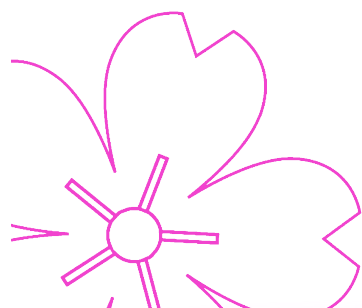


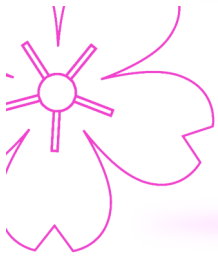
CU-TMDU Research and Education Collaboration Center, Thailand

September 30th, 2022

目次:

- | | |
|--------------------------------|---|
| ① コロナ感染拡大後初の渡泰 | 1 |
| ② マヒドン大学シリラート病院医学部一行が田中学長を表敬訪問 | 2 |
| ③ チュラJDP学位記授与式 | 3 |
| ④ マヒドンJDPタイ王国学会でのPR活動 | 4 |





① コロナ感染拡大後初の渡泰

タイ拠点のNewsletterと言いながら、コロナ禍のために相互訪問することができない状況でした。その中で、チュラロンコーン大学歯学部とのJDPでは学生の受け入れが継続的に行われておりました。関係の方々のご努力に感謝申し上げます。しかし、コロナ禍も3年目に入り、ようやく少しずつ交流が可能になってきました。まず、6月から医学科4年生のプロジェクト・セメスターの学生を1人、チュラロンコーン大学に派遣いたしました。また、10月からはマヒドン大学シリラート病院からJDPの第1期となる学生が3人来日し、本学外科での研修を受けることになっています。

このような交流が進む中で、やはりメールのやり取りや、オンラインでの会議だけでは十分に伝わらないことがあったり、レスポンスに時差が生じたりということがおこるものです。そこで8月9～11日には、秋田がチュラロンコーン大学医学部・歯学部、マヒドン大学シリラート病院・ラマチボディ病院、プリンセスチュラボンロイヤルアカデミー医科大学を訪問し、今後のJDPならびに学生交流について意見交換をすることができました。

国際交流はオンラインテクノロジーの進化で非常に簡便で身近にはなりましたが、やはり直接会って話をするもののメリットは、計り知れないものがあります。今後、かつてのような交流に戻し、さらに発展させるべく努めていきたいと思えます。 ■

＊タイ拠点運営管理者 臨床解剖学分野 秋田 恵一教授



チュラロンコーン大学にて



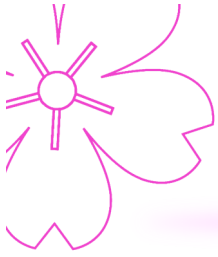
マヒドン大学シリラート病院にて



プリンセスチュラボン大学にて



マヒドン大学ラマチボディ病院にて



② マヒドン大学シリラート病院 医学部ご一行が田中学長を表敬訪問

2022年9月2日（金）にPrasit医学部長をはじめとするマヒドン大学シリラート病院のご一行総勢9名が本学を来訪されました。

本学訪問の午前中には、マヒドン大学JDP担当教員3名が来学し、本学のJDP担当教員と共にマヒドンJDPにかかる打ち合わせを行いました。また、当JDPのカリキュラムにおいて、臨床実習、研究活動の受入担当教員とも対面し、受入学生に関する情報共有を行いました。

午後には、Prasit現医学部長、Apichat次期医学部長をはじめとする総勢9名が田中学長を表敬訪問しました。田中学長からは、自身が理事時代にマヒドン大学との協定締結に関連してタイを訪問した際の思い出が語られたほか、本学理事、医学部長等も交えて、両大学の交流が育んできた人的関係について語り合われ、両大学間のさらなる連携の拡大に向けた積極的な意見交換が行われました。■

✧ 統合国際機構 国際交流課 JD・MPH係



両大学JDP担当教員による打合せの様子



開会の挨拶をする田中学長

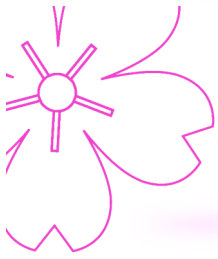


前列左から

Thawatchai教授、
Apichat教授（次期医学部長）、
Prasit教授（現医学部長）、
田中学長、大川理事、若林理事

後列左から

Vitoon准教授、Kulkanya教授、
Sith教授、Asada准教授、
東田教授、Prapat准教授、
秋田教授、国際担当事務他



③ チュラJDP学位記授与式

チュラJDPでは、2021年7月に初となる第一期修了生を2名輩出しています。コロナ禍のため延期されていましたが、2022年5月遂に学位記授与式がチュラロンコーン大学にて開催されました。本学の教員が足を運ぶことはできませんでしたが、賑やかな雰囲気の中で行われたようです。

また、2022年7月には新たに第二期生が本専攻を修了しており、11月に学位記授与式が開催される予定です。それまでにはコロナ第7波もおさまり、本学教員も参加できるよう願うばかりです。■

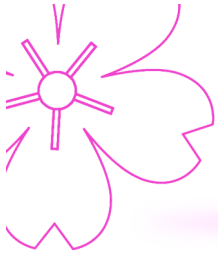
✧ 統合国際機構 国際交流課 JD・MPH係



第一期修了生



第一期修了生とチュラJDP関連教員



④ マヒドンJDPタイ王国学会でのPR活動

2022年7月13日～16日、タイ王国チョンブリ県パタヤにてタイ王立外科学会（RCST）主催による学会、「第47回Annual Scientific Congress」が開催されました。

外科医をはじめ学会関係者で満席の会場では、「東京医科歯科大学・マヒドン大学国際連携医学系専攻」専用のPRブースが設置され、マヒドン大学の教授、当プログラムのコーディネーターとともに、参加者へのPRを精力的に行いました。■

✧ 統合国際機構 国際交流課 JD・MPH係



参加者へPR活動を行う教員とコーディネーター

【発行日】 2022年(令和4年) 9月30日

【制作】 国立大学法人 東京医科歯科大学

統合国際機構国際交流課総務係 (E-mail: kokusai.adm@tmd.ac.jp)

https://www.tmd.ac.jp/international/globalization/tmdu_international_collaboration_centers/thai/

【本学タイ拠点所在地】

CU-TMDU Research and Education Collaboration Center,

11F Navamaracha Building, Faculty of Dentistry, Chulalongkorn University,

Henri-Dunant Rd. Patumwan, Bangkok, Thailand